

平成29年度

事業報告書

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

学校法人 純心女子学園

長崎市三ツ山町 235 番地

【I】法人の概要

1 学校法人純心女子学園の沿革

昭和	9年	6月	本学設置母体である長崎純心聖母会創立
	10年	4月	純心女学院創立（長崎市中町）
	11年	4月	純心女学院改め長崎純心高等女学校開設
	12年	3月	長崎市家野町（現在 文教町）に校舎新築し移転
	12年	4月	純心幼稚園開設
	15年	5月	純心保母養成所開設（当時 九州唯一の保母養成所）
	20年	8月	原爆により校舎全焼 214名の学徒殉難
	20年10月		大村市植松町（元 大村海軍航空廠工員寄宿舎）に、昭和24年4月長崎市に復帰
	22年	4月	純心中学校開設
	22年	5月	純心女子専門学校（神学科・被服科）開設
	23年	4月	純心女子高等学校開設
	25年	4月	純心女子短期大学社会科開設（純心女子専門学校を母体とする）
	26年	2月	学校法人純心女子学園認可
	26年	4月	純心女子短期大学保育科開設（純心保母養成所を母体とする）
	26年	4月	聖心幼稚園開設
	42年	4月	西彼純心幼稚園開設
	50年	4月	純心女子短期大学 長崎市三ツ山町235番地に移転
	58年	4月	純心女子短期大学英米文化科開設
	63年	4月	純心幼稚園改築 純心こども図書館を併設
平成	元年	4月	純心女子短期大学社会科に人文社会専攻及び社会福祉専攻設置
	元年12月		純心女子短期大学専攻科の設置
	3年	4月	純心女子短期大学専攻科開設
	3年12月		純心女子短期大学専攻科の設置
	4年	4月	純心女子短期大学専攻科（人文社会専攻、英米文化専攻）学位授与機構認定
	5年12年		長崎純心大学設置認可
	6年	4月	長崎純心大学 人文学部開設
	7年	3月	純心女子短期大学社会科人文社会専攻廃止・専攻科人文社会専攻廃止
	7年	4月	純心女子短期大学社会科を社会福祉科に学科名称変更
	8年	4月	純心女子短期大学専攻科（保育専攻）学位授与機構認定
	9年12月		長崎純心大学大学院修士課程設置認可
	10年	4月	長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻修士課程
	11年10月		長崎純心大学人文学部人間心理学科設置認可
	11年12月		長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程設置認可
	12年	3月	純心女子短期大学社会福祉科廃止
	12年	4月	長崎純心大学人文学部人間心理学科開設
	12年	4月	長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程開設
	12年	4月	純心女子短期大学を長崎純心大学短期大学部に名称変更
	12年10月		長崎純心大学人文学部英語情報学科設置認可
	13年	3月	長崎純心大学短期大学部英米文化科廃止
	13年	4月	長崎純心大学人文学部英語情報学科開設
	14年	5月	長崎純心大学人文学部児童保育学科設置認可
	15年	4月	長崎純心大学人文学部児童保育学科開設
	19年	3月	長崎純心大学短期大学部廃止
	19年	6月	長崎純心大学附属純心保育園開設
	20年	3月	西彼純心幼稚園廃止
	20年	4月	認定こども園認定（純心幼稚園・純心保育園）
	27年	4月	幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園に移行（←純心幼稚園・純心保育園）
	29年	3月	聖心幼稚園廃止
	29年	4月	長崎純心大学人文学部現代福祉学科を地域包括支援学科に学科名称変更

2 設置する学校・学部・学科等及び所在地

設置する学校	開校年月日	設置する学部等	所在地
A 長崎純心大学	平成 6年4月1日	人文学部	長崎市三ツ山235番地
	平成 6年4月1日	比較文化学科	
	平成 6年4月1日	地域包括支援学科 平成29年4月名称変更	
	平成12年4月1日	人間心理学科	
	平成13年4月1日	英語情報学科	
	平成15年4月1日	児童保育学科	
	平成10年4月1日	大学院	
	平成10年4月1日	人間文化研究科(修士)	
	平成12年4月1日	人間文化研究科(博士)	
B 純心女子高等学校	昭和23年4月1日	全日制課程(普通科)	長崎市文教町13-15
C 純心中学校	昭和22年4月1日		長崎市文教町13-15
D 幼保連携型認定子ども園長崎純心大学附属純心幼稚園	平成27年4月1日		長崎市文教町13-15
※純心幼稚園(昭和12年4月1日開園)、純心保育園(平成19年4月1日開園)より移行			

3 学部・学科等の入学定員、学生数の状況

(1) 長崎純心大学

学年	学部	学科	入学定員	29年5月1日現在	備考
1	人文学部	比較文化学科	40	34	
		地域包括支援学科	60	30	
		人間心理学科	60	40	
		英語情報学科	40	45	
		児童保育学科	100	88	
	人間文化研究科(修士)	15	13		
	人間文化研究科(博士)	3	2		
	小計	318	252		
2	人文学部	比較文化学科	40	31	
		地域包括支援学科	60	43	
		人間心理学科	60	50	
		英語情報学科	40	38	
		児童保育学科	100	100	
	人間文化研究科(修士)	15	16		
	人間文化研究科(博士)	3	1		
	小計	318	279		
3	人文学部	比較文化学科	40	32	
		地域包括支援学科	60	38	
		人間心理学科	60	57	
		英語情報学科	40	37	
		児童保育学科	100	92	
	人間文化研究科(博士)	3	1		
	小計	303	257		
4	人文学部	比較文化学科	40	55	
		地域包括支援学科	65	58	
		人間心理学科	65	60	
		英語情報学科	40	41	
		児童保育学科	90	106	
	小計	300	320		
大学合計			1,239	1,108	

(2) 純心女子高等学校

学年	課程名	入学定員	29年5月1日現在	備考
1	高校全日課程・普通科	240	182	
2		280	198	
3		280	213	
合計		800	593	

(3) 純心中学校

学年	課 程 名	入学定員	29年5月1日現在	備 考
1	中学校	80	50	
2		80	71	
3		80	65	
合 計		240	186	

(4) 幼保連携型認定こども園

	入学定員	29年5月1日現在	備 考
幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園	250	228	
合 計	250	228	

4 役員・教職員の人数 (平成29年5月現在)

(1) 役 員

理 事 9名(うち、理事長1名、常勤理事5名)

理事長	片 岡 千鶴子	常 勤
理 事	山 野 アヤ子	非常勤
〃	片 岡 瑠美子	常 勤
〃	東 千代子	常 勤
〃	山 口 光 枝	常 勤
〃	塩 崎 弘 明	常 勤
〃	川 上 敏 彦	常 勤
〃	齋 藤 寛	非常勤
〃	高 見 三 明	非常勤

監 事 2名

監 事	白 濱 重 晴
監 事	谷 川 憲 二

(2) 評 議 員

20名

片 岡 千鶴子	久保田 浩
山 野 アヤ子	田 口 知加子
片 岡 瑠美子	玉 城 雄 一
東 千代子	池 井 大 仙
高 見 三 明	山 頭 照 美
塩 崎 弘 明	池 田 洋 子
川 上 敏 彦	山 口 光 枝
荒 木 慎一郎	山 下 肇
山 田 幸 子	出 口 啓二郎
大 町 謙 治	齋 藤 寛

(3) 教員・職員

区分 部門	教 員										職 員			
	専 任 教 員							契約 教員	非常勤 教員	教員 合計	専任	契約	非常勤	職員 合計
	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭 (保 育教)	計							
法人											1			1
長崎純心大学	29	15	8	5	1	0	58	0	159	217	32	5	24	61
純心女子高等学校						42	42	2	11	55	6	1	6	13
純心中学校						13	13	1	3	17		1	1	2
幼保連携型認定こども園純心幼稚園						18	18		18	36	4		11	15
合 計	29	15	8	5	1	73	131	3	191	325	43	7	42	92

【Ⅱ】 事業概要

平成29年度事業計画概括

平成29年度の事業計画は、少子高齢化が進む社会にあつて、大学、中学・高校及びこども園（純心幼稚園）がその存在を示すべく、学園の教育理念に沿つて、第三期中期目標・計画実施の3年目にあたる基本計画の推進を骨子とするものであつた。これまでの営為を振り返り、かつ、これから先の営為を展望し得るにあつて、学園においては、平成29年度は組織の見直しなど、転換期にあたる重要な年度でもあつた。

平成27年度の学園創立80周年記念事業を終え、学園の教育研究の使命をより確かに継承していくため、来る100周年に向つて、新たに『純心マッチ基金』の寄附事業を平成28年度から開始した。

平成29年度は、学園の中期目標・計画が3年目を迎え、「教育」、「研究・実践」、「地域貢献」、「管理運営」及び「財務」の5項目の中期目標に対応した各部門での実施計画の実施状況について、PDCAサイクル体制の下で点検評価を行った。

特に、以下の2点については、積極的な取り組みを行った。

①地域貢献

- イ) 大学では、新たに「地方創生特待生」入試制度を実施して35名の入学生を受け入れた。
- ロ) 大学では、株式会社十八銀行及び長崎県中小企業家同友会と包括連携に関する協定書を締結し、地域社会に寄与するための施策を講じている。

②グローバル人材の育成

- イ) 大学では、ドイツのマインツ・カトリック大学から学生及び教職員を受け入れ、夏には本学でサマースクールを実施して外国人留学生を受け入れて本学の学生との国際交流を深めるとともに、本学の学生を海外の協定校へ留学生として派遣した。
- ロ) 中学・高校においては、生徒のニュージーランド及びカナダでのホームステイを実施した。

これらの取組以外に、大学では、7年に1回実施される認証評価（公益財団法人大学基準協会）を受け、その結果、「大学基準に適合している」との認定をいただいた（認定期間は、2018年4月1日から2025年3月31日までの7年間）。一方、幼保連携型認定こども園純心幼稚園は、教育機能・保育機能・子育て支援機能を一体的一貫的に行い、今まで行ってきたモンテッソーリ教育に基づき、園児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即して一貫した教育・保育、子育て支援を行っており、待機児童の解消にも貢献している。

近年、我が国の地方においては、少子化、人口減少等により、学校法人を取り巻く環境がますます厳しいものとなっており、本学園でも、その影響から免れ難く、中学・高校において近年定員割れが続いており、また、大学においても平成27年度以降定員割れの状況が続いていることから、学生・生徒の募集対策を積極的に実施し、学生・生徒の確保に努力して来たが、定員を満たすことができずにいる。そこで、選ばれる学園として教育の改革・改善に鋭意取り組み、高校でのコース制度を見直し、大学では、平成29年度から現代福祉学科を地域包括支援学科に名称を変更するとともに、学部再編を検討して平成30年4月から現在の5学科を3学科に再編した。今後は、学生・生徒の獲得に向けて、広報活動・募集活動の戦術を再考していかなければならない。

いずれにせよ、本法人の主体となる組織の求心力が高まる核をかため、引き続き「機を見るに敏」との気概で事業計画を推進しなければならない。

平成29年度 学校法人純心女子学園事業報告(概要)

1. 学校法人純心女子学園

- ①平成 29 年度の中期計画（年次計画）の点検評価を項目毎（教育、研究・実践、地域貢献、管理運営、財務）及び事業所毎に行った。
- ②平成 27 年度から 7 年計画で実施している中期目標・中期計画の平成 30 年度から平成 32 年度までの法人及び各事業所の年次計画を策定し、平成 30 年 3 月開催の理事会及び評議員会に諮って承認を得た。
- ③「人と世界に奉仕する」人材育成の教育研究使命を継承するために、創立 90 周年、創立 100 周年に向けて『純心マッチ基金』寄附事業を引き続き実施した。

2. 長崎純心大学大学院

- ①大学院学則の一部改正を行い、公認心理師の国家資格取得のためカリキュラムの見直しを行い、博士前期課程の臨床心理学分野における公認心理師養成の教育制度を構築した。
- ②博士前期課程における教職課程の受講者が少ないことから、平成 30 年度から教育職員免許状の取得の廃止を決定した。

3. 長崎純心大学

- ①平成 29 年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、評価の結果、「大学基準に適合している」との認定を得た（認定期間は、2018 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの 7 年間）。
- ②大学設置基準等の改正に伴い、平成 29 年 4 月からスタッフ・ディベロップメント（SD）の機会を設けることが義務化されたため、教員及び事務職員の協働組織である SD 委員会を設置し、平成 29 年 8 月 4 日に教職協働での SD 研修会を実施した。
- ③学部再編検討委員会において、既存の学科の再編等を検討し、平成 29 年 4 月に現代福祉学科を「地域包括支援学科」に名称を変更した。また、他の 4 学科についても学科の統合及び改編に向けて検討を行い、平成 30 年 4 月で比較文化学科と英語情報学科を統合して「文化コミュニケーション学科」へ改組し、地域包括支援学科に人間心理学科を統合し、児童保育学科を「こども教育保育学科」に名称を変更した。
- ④地域社会の発展に寄与するため、株式会社十八銀行と長崎純心大学との包括連携に関する協定書を、また、長崎県中小企業家連合会と長崎純心大学との包括連携に関する協定書を締結して、地域社会に寄与するための施策を講じ連携事業を実施している。
- ⑤平成 29 年度の入試制度として、入学年度の入学料、授業料及び教育充実費を全額免除する「地方創生特待生入試」を導入し実施し、35 名の特待生を受け入れた。
- ⑥平成 27 年度交流協定を締結したドイツのマインツ・カトリック大学から学生及び教職員を受け入れ、平成 29 年度にサマースクールを実施して外国人留学生を受け入れた。
- ⑦長崎純心大学外部評価委員会を実施し、平成 28 年度の長崎純心大学及び大学院の「点検・評価報告書」について外部評価を受けた。
- ⑧長崎大学医学部主幹で平成 25 年度に採択された「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に平成 29 年度も教員及び学生が長崎大学医学部との共同研究に参画し、医学部の学生と本学の学生との「共修」を実施した。

- ⑨長崎大学主幹で平成 27 年度に採択された大学改革推進等補助金「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業COC+」において、共同で開催したセミナー等に教職員及び学生が参加した。
- ⑩事務システム再構築として、基幹システム（教務システム等）、基幹システム以外の再構築及びWeb出願・入試システム等の整備、並びにお茶室の改修工事等の教育研究環境の整備を行った。
- ⑪私立大学等改革総合支援事業への取組（タイプ:1 教育の質的転換、タイプ 2:地域発展、タイプ 5:プラットフォーム形成）に採択された。
- ⑫私立大学等経営強化集中支援事業（タイプA）に採択された。
- ⑬高大連携事業の一環で、純心女子高校の生徒を学部科目等履修生として受け入れ、「地域の創造」及び「長崎の探究」を開講し、履修した高校の生徒が長崎純心大学に入学した場合は、既修得単位として認めることにした。

4. 純心中学校・純心女子高等学校

- ①平成 29 年度の教育目標である「やり抜く」{ イ) やり抜くために必要な情熱と粘り強さをもつ。 ロ) 大切なのは「今」。「今」を意識して精一杯生きる。 ハ) 自分らしさを知り、自分のよさを磨き、他者のために生かす。} を掲げて実施した。
- ②長崎県が実施する「魅力ある私立学校づくり支援事業」の補助を受け、グローバル人材の育成に力を注いだ。
- ③英語教育・国際交流・グローバル教育として、イ) 実用英語技能検定を全員受験、ロ) 英語の多聴多読、ハ) 中学：春の英検祭、秋の英検祭、ニ) 中学：「第 1 回校内レシテーション・スピーチコンテスト」、ホ) 中学：「レアジョブ」オンライン英会話レッスン、ヘ) 高校：ハウステンボス英語研修、ト) 高校：純心英検セミナー、チ) 高校：ニュージーランドホームステイ（高校生 19 名参加）、リ) 中学：カナダホームステイ（中学生 10 名参加）等を実施した。
- ④危機管理として、イ) 学校保健委員会（年 2 回）、ロ) 衛生管理委員会（年 4 回）を開催した。
- ⑤職員研修として、イ) 校内職員研修（年 2 回）、ロ) 長崎カトリック教職員協議会（9 名参加）、ハ) グローバル教育研修・学校視察、ニ) 教科指導研修、ホ) 進学指導研修、ヘ) ICT活用教育研修を実施した。
- ⑥中高大連携活動として、イ) 高校：Ⅱ年文英コース対象の長崎純心大学のネイティブ講師による授業、ロ) 中学：「レアジョブ」オンライン英会話レッスンの長崎純心大学教科課程履修者による指導等を実施した。
- ⑦平和教育において、イ) 高校：平和学習、被爆者の体験を語り継ぐ「交流証言者」松野氏の講演会の実施、ロ) 被爆 72 周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への出席、ハ) 永井隆生誕 110 年記念行事に高校音楽部と放送部が「永井隆と純心」をテーマに発表を行った。
- ⑧地域貢献事業としては、イ) 吹奏楽部のクルーズ船出港セレモニーの演奏、ロ) 中学ボランティア部のキャップリサイクル、恵の丘原爆ホームのボランティア奉仕作業、ハ) 高校

ミゼルコルディア部の献血の呼びかけ、あしなが学生募金、声の奉仕マリア文庫ボランティア奉仕作業等を実施した。

- ⑨施設設備の充実として、イ) 中学：全学年『eラーニング教材すらら』、ロ) 中学：教育のための情報環境整備として iPad (60 台)、ハ) 高校：教室の無線 LAN 構築及び iPad (8 台) と電子黒板機能付きのプロジェクターを導入した。
- ⑩高校のコース制度を見直し、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類を新しく導入した。
- ⑪部活動として、陸上部が長崎県高校総合体育大会及び長崎県高等学校新人体育大会において初の総合優勝を果たした。

5. 幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園

- ①「子どもが愛されている幸せを感じるまでの心からの奉仕」を目標として教育保育に努めた。初代園長のお言葉を生きようと「いやなことは私がよろこんで」を標語にあげ、まずは教職員から笑顔で挨拶、自分にできる奉仕を喜んで実践し、子どもたちにも毎日の教育保育の具体的な示唆としてきた。
- ②一人ひとりを大切にす温かい関わり合いの中で、神さまの愛と生命の尊さを知り、愛と奉仕のできる子どもの育ちを目指した。
- ③0才～3才クラスのモンテッソーリ教育の充実を図るため、担当主任とクラス担任が園見学を行った。クラス編成・環境設定・保育者の役割を再確認し園内研修を行った。
- ④3才～6才クラスのモンテッソーリ教育も実習専門の担当を位置付けて具体的な研修を導入した。
- ⑤地域交流としては、芋ほり、施設訪問、勤労感謝訪問など地域の方とのふれあいを持った。
- ⑥職員研修として、イ) 園内研修を毎月行い、モンテッソーリ教育の個別活動の見直しから、特別支援のケース会議の時間を持った。ロ) モンテッソーリ教育においては主任と担任1名が長崎純心大学のコース養成と併せて大学や研修先での情報を提供し園内での学びを深めた。ハ) 園外研修では、モンテッソーリ教育や特別支援に関する県や市の主催する研修会に参加した。また、外部講師による宗教教育研修（年3回）を行った。
- ⑦長崎純心大学との連携では、イ) 児童保育学科の教員から指導をいただき、年長児が卒園記念作品を泥粘土活動で製作した。ロ) 絵画活動では、美術作品展示の現場でも教員から直接指導をいただき、その中で具体的な保育教諭の環境設定、指導、観察の指導をいただいた。
- ⑧純心聖母会との連携では、イ) 「聖書」勉強会に職員が自由に参加できるようシフトを組み、勉強会で学んだことを教育保育に生かせるようにした。ロ) 保護者の「聖書」勉強会（カンターボ）を、毎月テーマを決めて呼びかけたところ数名の保護者が年間継続して参加した。
- ⑨施設設備においては、イ) 空調設備工事及びLED取替え工事、ロ) 園庭のゴムチップ敷設工事等を行い、園児の教育環境の改善整備を行った。

1. 学校法人

(1) 中期目標・中期計画等

- ①平成 29 年度の中期計画（年次計画）の点検評価を項目毎（教育、研究・実践、地域貢献、管理運営、財務）に各事業所で行い、平成 30 年 3 月 5 日の理事会で承認を得た。
- ②平成 27 年度から 7 年計画で実施している中期目標・中期計画の平成 30 年度から平成 32 年度までの法人及び各事業所の年次計画を策定し、平成 30 年 3 月 5 日の理事会及び評議員会に諮って承認を得た。

(2) 『純心マッチ基金』寄附事業を実施

- ①「人と世界に奉仕する」人材育成の教育研究使命を継承するために、創立 90 周年、創立 100 周年に向けて『純心マッチ基金』寄附事業を引き続き実施した。

(3) 寄附行為の改正

- ①学校法人純心女子学園寄附行為を改正した。（平成 30 年 4 月 1 日施行）
 - ・長崎純心大学「児童保育学科」を「こども教育保育学科」に名称変更
 - ・「比較文化学科」と「英語情報学科」を統合して「文化コミュニケーション学科」を設置

(4) 規則等の制定、改正

- ①長崎純心大学学則を改正した（平成 30 年 4 月 1 日施行、平成 31 年 4 月 1 日施行）。
- ②長崎純心大学大学院学則を改正した（平成 30 年 4 月 1 日施行）。
- ③純心女子高等学校学則を改正した（平成 31 年 4 月 1 日施行）。
- ④純心女子学園監事監査規程を制定した（平成 29 年 5 月 15 日施行）。
- ⑤就業規則（幼稚園）を改正した（平成 29 年 9 月 1 日施行）。
- ⑥非常勤職員就業規則（学園・幼稚園）を改正した（平成 30 年 4 月 1 日施行）。
- ⑦給与規程（学園・幼稚園）を改正した（平成 30 年 4 月 1 日施行、幼稚園：一部平成 29 年 8 月 1 日から適用）。
- ⑧非常勤職員給与規程（学園・幼稚園）を改正した（平成 30 年 4 月 1 日施行、一部は平成 29 年 10 月 6 日から適用）。
- ⑨純心女子学園業務分掌規程を改正した（平成 29 年 7 月 1 日施行、平成 30 年 4 月 1 日施行）。
- ⑩純心幼稚園園則を改正した（平成 29 年 9 月 11 日施行、平成 27 年 4 月 1 日から適用）。
- ⑪育児休業及び育児短時間勤務に関する規則を改正した（平成 29 年 10 月 1 日施行）。
- ⑫純心女子学園総合企画室規程を改正した（平成 29 年 7 月 1 日施行）。
- ⑬長崎純心大学教員（任期制）任用規程を改正した（平成 30 年 4 月 1 日施行）。

(5) 聖心幼稚園の園舎解体工事等

- ①平成 29 年 3 月で廃止した聖心幼稚園の園舎の解体工事及び跡地の整地工事を行った。

2 長崎純心大学大学院

(1) 大学院の学則改正

- ①大学院学則の一部改正を行い、公認心理師の国家資格取得のためカリキュラムの見直しを行い、博士前期課程の臨床心理学分野における公認心理師養成の教育制度を構築した。
- ②博士前期課程における教職課程の受講者が少ないことから、平成 30 年度から教育職員

免許状の取得の廃止を決定した。

3 長崎純心大学

(1) 大学評価（認証評価）の受審等

- ①平成 29 年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、評価の結果、「大学基準に適合している」との認定を得た（認定期間は、2018 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの 7 年間）。
- ②長崎純心大学外部評価委員会を実施し、平成 28 年度の長崎純心大学及び大学院の「点検・評価報告書」について外部評価を受けた。

(2) 学部再編検討

- ①学部再編検討委員会において既存の学科の再編等を検討し、平成 29 年 4 月に現代福祉学科を「地域包括支援学科」に名称変更した。さらに現在の 5 学科を 3 学科に再編することとし、平成 30 年 4 月から「比較文化学科」と「英語情報学科」を統合して「文化コミュニケーション学科」へ改組し、「児童保育学科」を「こども教育保育学科」に名称変更し、「人間心理学科」を既存の「地域包括支援学科」に統合して 3 学科にした。

(3) 地域貢献・地域連携活動

- ①地域社会の発展に寄与するため、株式会社十八銀行と長崎純心大学との包括連携に関する協定書を、また、長崎県中小企業家同友会と長崎純心大学との包括連携に関する協定書を締結し、具体的な連携事業に着手した。
- ②地域連携センターの活動として、カウンセリング、訪問相談、研修等で学外の 16 機関を訪問し、高齢者対象生涯学習講座及び地域連携センター公開セミナーを実施した。

(4) 地方創生特待生入試の実施

- ①平成 29 年度の入試制度として、入学年度の入学科、授業料及び教育充実費を全額免除する「地方創生特待生入試」を導入して実施し、35 名の地方創生特待生を受け入れた。

(5) 学則等の改正

- ①長崎純心大学学則を改正した（平成 30 年 4 月 1 日施行、平成 31 年 4 月 1 日施行）。
- ②長崎純心大学大学院学則を改正した（平成 30 年 4 月 1 日施行）。
- ③長崎純心大学教員（任期制）任用規程を改正した（平成 30 年 4 月 1 日施行）。

(6) 補助金・助成金等

- ①平成 29 年度科学研究費補助金を申請したが採択されなかった。前年度からの継続が 4 件である。また、研究分担者として継続が 1 件あり、合計で 5 件となった。
- ②長崎大学申請の「平成 25 年度未来医療研究人材養成拠点形成事業」の共同研究に継続して参画し、長崎大学医学部との「共修」を実施した。
- ③長崎県内大学間連携共同教育推進事業「長崎発グローバル人材育成プログラム」に参加した。
- ④長崎大学申請の平成 27 年度大学改革推進等補助金「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 C O C +」に参画し、新たに導入した遠隔授業システムを利用してのセミナー及び長崎大学でのシンポジウム等に学生及び教職員が参加した。
- ⑤私立大学等改革総合支援事業への取組 タイプ 1（教育の質的転換）、タイプ 2（地域発

展)及びタイプ5(プラットフォーム形成)に採択された。

⑥私立大学等経営強化集中支援事業(タイプA)に採択された。

⑦コンプライアンス教育・研究倫理教育の研修会を、平成30年2月21日開催の教授会において実施した。今回の研修会では科学技術振興機構の研修資料を使用し、教授会終了後には大学院学生にも資料を配付して、指導教員から周知徹底することにした。

また、教職員に対しては、日本学術振興会のネット上で履修できる「研究倫理eラーニングコース」を受講するように推奨し、「修了証書」を総務課へ提出するよう周知した。

(7) 大学教育・研究事業

①教育振興推進策として次の3点を主要な項目として実施した。

- ・アクティブラーニングを用いた学生による大学情報誌の作成
- ・英語情報学科教職課程(英語)履修者の英語指導力向上を目指した指導実践の推進
- ・私たち学生が、身近な地域の人たちと何ができるか

②研究では、学内共同研究として次の2点を主要な項目として実施した。

- ・カトリック思想家の「人格」理解の研究—ジャック・マリタン、マリア・モンテッソーリ、エディット・シュタインを中心に—
- ・Catholicism in Japan after 1859

③国際交流事業としては次の2点を実施した。

- ・平成27度交流協定を締結したドイツのマインツ・カトリック大学から学生6名及び教職員3名を受け入れた。また、平成29年8月に本学でサマースクールを実施し、上智大学の外国人留学生2名を受け入れた。
- ・本学の学生を、交流協定を締結している海外の大学へ留学生として派遣した。

④本学の学生(3年生)が、「私たち大学生が見た長崎、平和への道」を作成して発刊し、平成29年12月2日には、東京都立石神井高校の修学旅行生(2年生276名)と、この冊子を活用して、本学の学生との『平和交流会』を実施した。なお、この冊子は英語版を作成し、Web上で世界に発信した。

⑤第20回Junshin Cup 英語オーラルコミュニケーションコンテストを平成29年11月4日(土)に開催した。高校生を対象としたコンテストで、事前音声審査による予選通過者19名(レシテーション部門7名、スピーチ部門12名)の参加があった。

(8) 平成29年度教員免許状更新講習の実施

平成29年度教員免許状更新講習を本学で実施した。

- ・開催日： 平成29年6月17日から8月12日までのうち7日間
- ・参加者数： 必修領域の受講者170名、選択領域の受講者が522名 延べ692名
- ・時間数： 延べ18コマ 108時間
- ・教員数： 延べ26名

(9) 平成29年度幼稚園教諭免許状取得特例講習等の実施

①認定こども園法の一部改正により「幼保連携型認定こども園」に配置される職員は、保育教諭の資格が必要となり、その資格取得のため幼稚園教諭免許状取得特例講習を実施した。講習では「教育課程の意義及び編成の方法」に係る科目『保育課程論』を開設し、16名の受講者があった。

- ②同様に平成 29 年度の保育士資格取得特例講習を実施し、科目「福祉と養護」を開設し、24 名の受講者があった。

(10) FD 研修等

- ①毎年実施している F D 研修会は、平成 30 年 3 月 13 日（火）10 時 00 分から 15 時 30 分まで実施し、午前の部では、広島大学大学院総合科学研究科教授・アクセシビリティセンター長の佐野（藤田）氏を講師に「障害のある学生への支援：広島大学の事例から」のテーマで講演が行われた。午後の部では、7 グループに分かれて、グループワーク及び全体会でシンポジウムが実施され、シンポジウムにおいて各グループからの発表及び質疑応答などが行われた。
- ②FD Newsletter 第 6 号を平成 30 年 1 月 22 日に発行した。
- ③授業参観は、前期：平成 29 年 6 月 5 日～6 月 16 日に、後期：29 年 12 月 4 日～12 月 15 日に実施した。
- ④学生による授業アンケートは、前期：平成 29 年 7 月 20 日～8 月 4 日に、後期：平成 30 年 1 月 23 日～2 月 5 日に実施した。
- ⑤高大連携の一環で、純心女子高校の生徒を学部科目等履修生として受け入れ、長崎純心大学の授業科目の「地域の創造」及び「長崎の探究」の 2 科目を開講し、長崎純心大学に進学してきた場合は、既修得単位として認定することにした。
- ⑥出張講義を次のとおり実施した。
- ・大村高校：7 月 11 日（2 年生 20 名）、
 - ・清峰高校：10 月 17 日（2 年生 20 名）、
 - ・奈留高校：11 月 15 日（全生徒 23 名）、
 - 長崎北陽台高校：10 月 23 日（2 年生 45 名）、
 - 10 月 23 日（2 年生 40 名）、
 - ・島原高校：10 月 20 日（1・2 年生 30 名）

(11) SD 研修

- ①大学設置基準等の改正に伴い、平成 29 年 4 月からスタッフ・ディベロップメント（SD）の機会を設けることが義務化されたため、教員及び事務職員の協働組織である SD 委員会を設置し、平成 29 年 8 月 4 日に SD 研修会実施した。
- 今回は、「マーケティング時代の安定的な学生募集～高校生・新入生の心を掴むために～」(講師：特定非営利活動法人 NEW EVERY 理事、高等教育事業部ディレクター 伊藤氏)をテーマに講演とワークショップを行った。また、「財務状況について」、「大学改革と中長期計画について」、「大学運営と教務」、「学生カードを利用した面談について～初年次教育～」及び「キャリア支援等について」の講演を併せて行った。
- ②平成 30 年 3 月 13 日には事務職員を対象とした第 2 回の SD 研修会を実施し、「本学の国際関係業務の実態について」をテーマに、本学の担当職員から講演を行った。
- ③協定締結校である鹿児島純心女子大学が主催する SD 研修会が平成 29 年 8 月 29 日・30 日に開催され、本学の事務職員 5 名が参加した。
- ④平成 29 年度長崎純心大学事務部課・室の業務等の改善取組（目標・計画）を 4 月に作成し、翌年 3 月までの 1 年間の改善取組状況をまとめた。

(12) 学生活動状況

- ①株式会社十八銀行の連携事業の一環として、本学の学生が十八銀行の 5 つの支店において一日支店長に委嘱され、十八銀行主催の「地域連携・年末防犯キャンペーン」に参加

して、来店された地域住民の方々に「純心大学特製クッキー」を配布するなどして特殊詐欺等への注意喚起を行った。(平成 29 年 12 月 15 日、25 日、26 日)

②浦上警察署との連携事業の一環として、本学の学生が一日警察署長に委嘱され、浦上警察署主催の「年末防犯キャンペーン」に参加し、チラシを配布するなどして、「犯罪・交通事故のない安全で安心なまちづくり」を呼びかけた。(平成 29 年 12 月 6 日)

また、長崎市のチトセピアホールで開催された「浦上警察署安全安心祭り」に、本学の児童保育学科の学生が和太鼓(「鼓娘」)の演奏で参加した。(平成 29 年 9 月 19 日)

③長崎県警察本部において、本学の児童保育学科の学生 1 名が、少年警察ボランティア「学生サポーター」のリーダーとして、非行防止教室や少年の立ち直り支援活動で活躍した実績を評価され、感謝状が贈呈された。(平成 30 年 3 月 9 日)

④本学の児童保育学科の学生活動である保育実践研究会 Smile は、地域の子どもとその保護者とのふれあい活動等に参加しており、平成 29 年度は、長崎市滑石ふれあいセンターでの「子どもふれあいの集い」、長崎市東公民館での「にこセン子育てフェスタ」等にリーダーとして子育て実践に参加し、その日頃の活動が評価されて学長表彰を受賞した。(平成 29 年 3 月 16 日)

⑤学生の海外留学 8 名、実習・研修等 37 名、合計 45 名の学生が海外渡航を行った。

⑥学生のボランティア活動として 107 名の U サポート登録者が、くれよんメイトの活動に延べ 72 名参加した。また、児童保育学科の学生延べ 1,023 名がボランティアとして幼稚園、保育園、小学校等で活躍した。

(13) 入試広報活動

①平成 29 年度長崎純心大学進学懇談会を県内高校の進路指導の教諭を対象に平成 29 年 6 月 28 日に実施した。

②学長が長崎県内の高校学校の 30 校を直接訪問し、校長、教頭又は進路指導の教諭に会って、平成 30 年度からの学部再編(5 学科から 3 学科に改組)及び地方創生特待生について説明を行った。

③入試委員会委員を中心に、福岡、佐賀、大分、熊本、の高校 83 校、長崎県の高校延べ 42 校に教職員が訪問し大学や学生の状況等について説明を行った。

④企業等が実施する進学説明会及び高校の 76 会場に出向き大学の説明を行った。

⑤高校の長崎純心大学訪問では、向陽高校(100 名)、大村城南高校(4 名)、長崎明誠高校(31 名)、諫早高校(39 名)、諫早東高校(35 名)から訪問を受け、長崎純心大学の説明を行った。

(14) 就職活動状況

①長崎純心大学に 175 社の求人のため来訪があり、学内で 92 社が企業説明会を開催した。

②教職員が 82 社を訪問し、大学の紹介・説明を行った。

③キャリアセンター及びキャリア支援システム説明会 59 回開催し、学生 425 名の参加があった。

④学内企業説明会(単独・合同)に学生 374 名が参加した。また、学内就活セミナーに 402 名が参加し、学外イベント等に 170 名が参加した。

⑤平成 29 年度卒業生の就職希望者の就職率は、全体で 98.1%を達成することができ

た。平成29年度求人数は2,054人で（昨年度比107.8%）あった。

(15) 施設整備・改修

- ①事務システム再構築（基幹システム）及び事務システム再構築（基幹システム以外）を行った。
- ②仮想サーバ再構築を行った。
- ③平成30年度の入試においてWeb出願システムの導入を行った。
- ④S棟屋上防水工事及び茶室屋上防水・外壁塗装工事を行った。
- ⑤茶室内部改修工事を行った。
- ⑥給水施設・ろ過機取替え工事を行った。

(16) 生涯学習等

1) 博物館の企画展等

- ①「浦上四番崩れ150年『旅』の記憶」展（4月1日～8月25日）
- ②「ロザリオの祈り」展（10月10日～11月13日）
- ③「世界のクリスマス」展（12月1日～1月16日）
- ④「武文桜・監修・群像人形『竹取物語』」展（2月9日～4月6日）
- ⑤博物館見学者は延べ3,199名であった。
- ⑥長崎学オプション研修旅行「姫路・鳥取巡礼 浦上四番崩れ配流地」
- ⑦寄贈受入（版画家・迫平陽子氏作品、エミール・ガレ作品、刀剣ほか資料39点）
- ⑧長崎純心大学博物館研究第22輯「浦上四番崩れから150周を迎えて」記念講演集発行

2) 公開講座等

- ①「長崎学講座」（5月13日～7月22日：全11回）、参加者：延べ467名
- ②第56回長崎・キリシタン文化研究会「岩倉使節団と浦上四番崩れ」（6月17日）、参加者：126名
- ③第17回心理教育相談センター講演会「職場の発達障害への理解・対応・準備」（5月27日）、参加者：144名
- ④外国人のための日本語能力試験対策講座（5月27日～6月24日）、
参加者：延べ80名
- ⑤外国人のための日本語能力試験対策講座（10月14日～11月25日）、
参加者：延べ74名
- ⑥TOEICに備える特別セミナー2017Part1（5月27日）、参加者：41名
- ⑦TOEICに備える特別セミナー2017Part2（10月7日）、参加者：39名
- ⑧純心カレッジ三ツ山塾「18歳以上の知的障がい者を対象とした公開講座」（5月20日～2月24日）、参加者：延べ150名
- ⑨第23回児童教育支援センター講演会「声を介した母親（保育者）と赤ちゃんの関係～赤ちゃん研究の成果から～」（6月3日）、参加者：153名
- ⑩第24回児童教育支援センター講演会「保育園の食育を学童期に繋げよう！～観て・触れて・感じて・嬉しい食体験～」（11月11日）、参加者：124名
- ⑪第3回長崎純心大学人文学部人間心理学科主催講演会「公認心理師の役割と未来」（10月28日）参加者：108名

⑫第 39 回英語教育公開講座「小学校から高校までー外国語教育の改善ー」

(11 月 12 日)、参加者：45 名

(17)総括(平成 29 年度の主な実施事業について)

長崎純心大学における平成 29 年度事業の重要事項は、7 年毎に実施される大学評価（認証評価）であったが、公益財団法人大学基準協会の認証評価の結果は、「大学基準に適合している」との認定（認定期間：2018 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの 7 年間）であった。

しかし、提言の努力課題及び改善勧告は、大学院に関するものがほとんどで、改善に向けた早急な取組みが必要である。

次に、学部再編の検討に関しては、平成 29 年度に現代福祉学科を「地域包括支援学科」に名称変更し、平成 30 年 4 月には、この地域包括支援学科に人間心理学科を統合し、比較文化学科と英語情報学科を統合して「文化コミュニケーション学科」を設置し、児童保育学科をこども教育保育学科に名称変更を行った。平成 30 年 4 月の新学科での入学生は合計で 252 名（うち男子 15 名）であった。各学科の内容周知が十分でなかったこともあるが、平成 30 年度の学生募集活動に全力で取り組み、入学定員を満たすことが課題である。

大学基準協会の認証評価において、社会連携・社会貢献に関して「長所として特記すべき事項」と高い評価を受けたが、今後とも、地域社会に根ざす大学として、引き続き、本学の地域社会との連携事業及び貢献活動を積極的に行っていく必要がある。

一方で、国際化やグローバル化が進む中で、外国人留学生の受入れ等の国際交流の活動が遅れており、平成 30 年度以降の本学の重要な課題でもある。

今後、18 歳人口が減少する中で、地方の大学は学生確保が困難な状況に追い込まれる。外国人留学生や社会人の入学を促進する施策を講じていくことによって、活路を見い出していかねばならない。

4. 純心中学校・純心女子高等学校

(1)教育における特色ある取組

平成 29 年度の教育目標

- 「やり抜く」 ・やり抜くために必要な情熱と粘り強さをもつ。
- ・大切なのは「今」。「今」を意識して精一杯生きる。
- ・自分らしさを知り、自分のよさを磨き、他者のために生かす。

【全校生】

- ①長崎県「魅力ある私立学校づくり支援事業」の補助を受け、グローバル人材の育成に力を注いだ。
- ②日本漢字能力検定受検（希望者 67 名）
- ③創立記念感謝ミサ（12 月 7 日 浦上教会）
- ④日本二十六聖人放送講話（2 月 1 日 1 校時 崎濱師 聖母の騎士学園 理事長・校長）
- ⑤中 I・高 I・Ⅲが 1 年に 1 回、クラスごとに三ツ山のセミナーハウスに宿泊し、農作業・奉仕活動を体験（錬成会）。
- ⑥黙想会

- ・ 中学1・2年生 … 3月7日 平野師（城山教会）
- ・ 中学3年生 … 3月7日 松本師（フランシスコ会）
- ・ 高校Ⅰ年生 … 3月19日 Sr.坂本（純心聖母会）・濱口師（ミサ司式神言会）
- ・ 高校Ⅱ年生 … 3月19日 山内師（浦上教会）
- ・ 高校Ⅲ年生 … 2月6日 濱口師（神言会）

【中学生】

- ①朝自学 … デジタル教材『eラーニングすらら』を使用
- ②コース制（アドバンス・スタンダード）の充実
- ③ティームティーチングの実施 … 1年生の数学
- ④習熟度別授業の実施 … 3年生の国語・英語・数学
- ⑤総合学習・LHR … ネットと携帯電話・人権学習・救急救命サポート講座（中1）・薬物乱用防止講座
- ⑥授業参観・懇親会・相談会（年2回）を開催
- ⑦定期試験前学習会の実施
- ⑧夏期学習合宿 … 希望者21名参加 於：セミナーハウス（7月21～22日）
- ⑨音楽鑑賞会 … オペラ『ヘンゼルとグレーテル』（長崎県新演奏家協会）（11月14日）
- ⑩中学2年生 沖縄修学旅行（12月11日～13日）
- ⑪中学3年生 実力確認試験実施（1月10日）
- ⑫中学3年生 日本二十六聖人記念館を訪問（1月20日）
- ⑬中学3年生 校内達成度テスト実施（2月2日）

【高校生】

- ①新コース制（Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類）の導入
- ②朝の読書（8時35分～45分 10分間）実施
- ③基礎力充実テスト実施（週1回 火曜日 国・英）
- ④高校Ⅰ年…初期指導（4/12～25）
 - ・ 学び直し（国・英・数・理・社）
 - ・ キャリア教育講演、集団行動、マナー講座など。
- ⑤総合学習・LHR … マナー講座・薬物乱用防止講座・人権学習 など。
- ⑥永井隆の命日（5月2日）に墓参・清掃 … 中高生徒会・小羊会員（18名）職員（5名）
- ⑦九州夢大学参加（希望者）福岡国際会議場（7月24日）
- ⑧高校生模擬裁判九州選手権（対 佐賀西高校）に、10名が弁護側で参加し優勝。
（8月25日 於：佐賀地方裁判所）
- ⑨職業人講話 … 10/11 10/18 11/8 総合学習（高Ⅱ文文コース）
 - 長崎情報文化研究所 河野氏 渡邊歯科医院 渡邊氏
 - ザ・ホテル長崎BWプレミアコレクション 副総支配人 老松氏
 - 中西・加藤法律事務所 副所長 加藤氏
- ⑩夢ナビライブ参加（希望者135名）マリンメッセ福岡（10月21日）
- ⑪「LINEについての講演会」LINE オフィシャルインストラクター 中西氏

(10月28日)

⑫第11医療隊記念碑清掃奉仕(川平)中高生徒会・ゼリコルデアクラブ参加(11月11日)

⑬高校Ⅱ年生 北陸・関西修学旅行(12月11日～14日)

⑭高校Ⅲ年生…卒業前研修・体験学習(進路決定者)

- ・講演「若者のための消費生活入門」(長崎市消費者センター)
- ・講演「卒業を前に純心を知る」(Sr.山口)
- ・講演「デートDV予防教室」(NPO法人DV予防ながさき 佐藤氏)
- ・講演「『食べること』の意味について」(大曲先生 長崎県立大学 シーボルト校教授)
- ・新生活応援セミナー(官公学生服・鈴木服装)
- ・消防団講話(牧島氏 長崎市消防団広域支援分団・末吉氏 長崎市消防局指令課)
- ・赤十字講話(山下氏 日本赤十字社)

⑮国際看護師についての講話…岩野氏 高校Ⅱ年生(希望者20余名)(3月19日)

(2)英語教育・国際交流・グローバル教育

①実用英語技能検定を全員受検(高Ⅲは6月・中高ⅠⅡは1月)

②英語の多聴多読…中学(全)・高Ⅰ(全)・Ⅱ(国公立・理系・文英)・Ⅲ(文英) 於:CALL
教室

③中学「春の英検祭」「秋の英検祭」実施

④中学『第1回校内レシテーション・スピーチコンテスト』を実施(9月2日)

⑤『レアジョブ』オンライン英会話レッスン(中学2年生 5/11 5/18 5/25 7/6
7/13)

⑥長崎市国際交流員による文化交流講座(高Ⅰ・Ⅱ 11月13日)

⑦ハウステンボス英語研修…高Ⅱ文英コース(6月26日)

イングリッシュスクエアで英語研修 ※魅力ある私立学校づくり支援事業

⑧魅力ある私立学校づくり支援事業講演会(6月29日)

講師:羽賀氏(新潟県長岡市国際交流センター長)

演題「グローバル人材に求められる能力とは」

⑨長崎県高等学校国際教育研究協議会 高校生夏季研修会に生徒6名参加

(諫早青少年自然の家 7月13日～14日)

⑩純心英検セミナー(1月4日～6日 高校生 希望者48名)

オンラインWeblio英会話・長大留学生(9名)によるセミナー・語彙学習・多聴多読

⑪ニュージーランドのオークランド市ホームステイに高校生19名・引率教員2名が参加
サンタマリアカレッジでの体験学習・文化交流を実施(8月9日～8月22日)

⑫長崎市国際交流員(3名)による文化交流(11月13日 13:00～14:00) 対象:高ⅠⅡ希望者

⑬第2回カナダホームステイ(3月13日～28日)

カナダのレッドディア・カルガリー市を中学3年生10名・引率教員2名が訪問し、語学研修と文化交流を実施

(3)危機管理

- ①学校保健委員会を2回開催した(7/20・3/14)。
- ②衛生管理委員会を4回開催した(4/17・7/19・8/29・2/26)。
- ③体罰に関するアンケートを実施した(1月)。
- ④学校生活の悩みといじめに関するアンケートを実施した(5月・9月・1月)。

(4)職員研修

- ①校内職員研修(8月25日(金)13:30~16:00) ※講師は本校教員
テーマ「高大接続改革の現状について」 講師 玉城先生
テーマ「グローバル教育について」 講師 脇山先生
テーマ「ICT教育について」 講師 松尾先生
テーマ「キャリア教育について」 講師 井手先生
- ②校内職員研修(2月20日(火)13:00~14:45)
キャリア教育研修『キャリア教育の理解』
講演:長田氏(文部科学省初等中等教育局 教育課程科 教科調査官)
- ③長崎カトリック教職員協議会 … 9名参加(12月2日 於:カトリックセンター)
- ④グローバル教育研修・学校視察
 - ・次世代教育セミナー in 福岡(アクア福岡 5月27日)
 - ・ベネッセグローバル教育研究会(ガーデンシティ博多 6月2日)
 - ・聖和女子学院高等学校視察(6月22日)
 - ・大学入試における英語検定試験活用に関する緊急説明会(新宿住友スカイルーム 6月24日)
 - ・鹿児島純心中学校スピーチコンテスト見学(7月11~12日)
 - ・長崎県英語指導力向上研修(大村市役所 7月25日)
 - ・長崎県英語指導力向上研修(大村コミュニティーセンター 8月3日)
 - ・長崎県英語指導力向上研修(郡地区公民館 8月4日)
 - ・授業改革先取りセミナー(ヒルトン福岡シーオーク 8月7日)
 - ・中高生の21世紀型スキルを伸ばす英語指導法(オックスフォード大学出版局 8月12~13日)
 - ・大学入試共通テストにおける英語民間検定試験活用を見据えた、これからの進路・教科指導を考える研究会(TKP 博多駅前シティーセンター 9月15日)
 - ・九州多聴多読セミナー(福岡女学院中高・筑紫女学院中高 11月2日)
 - ・第1回グローバル教育セミナー福岡(博多バスターミナル 11月25日)
 - ・大学入学共通テストを見据えた英語4技能育成を考える会(TKP ガーデンシティ博多 12月13日)
 - ・第17回全国中高一貫教育研究大会(大阪府立能勢高等学校 2月2~3日)
 - ・徹底公開@日大三島~静岡グローバルハイスクール関連授業~(日本大学三島中高 2月16~17日)
- ⑤教科指導研修

- ・大学・高校 数学科入試連絡会（福岡工業大学 5月21日）
- ・平成29年度長崎県算数・数学教育研究（県北）大会（佐世保南高・日宇中学校
7月6日）
- ・九州の数学指導を考える研究会（TKP ガーデンシティ博多 7月8日）
- ・平成29年度九州高校歴史教育研究協議会 第39回研究大会（長崎ブリックホール
7月27～28日）
- ・代々木ゼミナール2017年度教職員セミナー（国語）（代々木ゼミナール福岡校
7月29日）
- ・代々木ゼミナール夏期教員セミナー（国語）（代々木ゼミナール福岡校 8月5～6日）
- ・平成29年度ステップアップセミナー（国語）（シーハットおおむら 8月7日）
- ・第33回技術教育研究会（長崎大学 8月7日）
- ・学校体育指導者夏期実技講習会（長崎女子短期大学 8月17日）
- ・平成29年度長崎県高校美術・工芸部会研究大会（佐世保東翔高校 8月21日）
- ・平成29年度熊本大学附属中学校研究発表会（10月14日）
- ・第62回長崎県国語部会総会並びに研究大会（長崎東中学・高校 10月20日）
- ・第47回長崎県私学教育研修会（商業・情報部会）（長崎女子商業高校 10月27日）
- ・第61回九州地区高校国語教育研究大会（都久志会館 JR九州ホール 10月26～27日）
- ・第31回長崎国語教育実践研究大会（精道三川台中学高校 10月28日）
- ・平成29年度長崎県私学教育研修会（数学部会）（青雲中学・高校 11月9日）
- ・東京学芸大学附属中高 数学教育研究会（数学）（3月2日～3日）
- ・授業法ワンデイセミナー 小論文（代々木ゼミナール福岡校 3月24日）

⑥進学指導研修

- ・山口AO入試説明会（福岡 ソラリア西鉄ホテル 5月11日）
- ・進学説明会（金沢工業大学 5月23～24日）
- ・教育・入試改革に向けたこれからの学校教育を考える会（ザ・ホテル長崎BW 5月31日）
- ・長崎県立大学説明会（佐世保校）（6月13日）
- ・高校進路指導主事研修会（大村教育センター 6月14日）
- ・広島大学入試説明会（アクロス福岡 6月15日）
- ・教員向け2018年度一般入学試験（TEAP利用型）説明会（JR博多シティ 6月17日）
- ・ハートランド清心女子大学・福岡工業大学説明会・福岡工業大学附属城東高校訪問
(6月21～23日)
- ・福岡女子大学説明会（本学 6月30日）
- ・低学年進路面談説明会（ANAクラウンプラザホテル福岡 6月28日）
- ・北九州市立大学説明会（本学 7月5日）
- ・佐賀大学説明会（本学 7月6日）
- ・平成29年度大学入学者選抜 大学入試センター試験説明協議会（福岡ファッションビル
7月13日）
- ・長崎県高校進学指導研究協議会 総会・研修会（諫早観光ホテル道具屋 7月14日）

- ・九州大学入試説明会（河合塾福岡校 7月15日）
- ・第66回進路指導・キャリア教育研究協議全国大会（国立オリンピック記念青少年総合センター 7月26～28日）
- ・九州夢大学・九州産業大学教育フォーラム（福岡国際センター 7月24日）
- ・平成29年度九州高校歴史教育研究協議会 第39回研究大会（ブリックホール 7月27～28日）
- ・福岡・中国地方大学（福岡市立大・島根大・鳥取大・岡山大・山口大 他）訪問（8月1～4日）
- ・第33回技術教育研究会（長崎大学 8月10日）
- ・第1回大学入試（高大接続改革）研究会（ながさき看護医療センター 8月25日）
- ・第3回 高大接続改革シンポジウム（九州大学 8月26日）
- ・第1回大学入試研究会（諫早高校 10月1日）
- ・夢ナビライブ（マリンメッセ福岡 10月21日）
- ・高校生のための学びの基礎診断と新学習指導要領を見据えた指導研究会（TKP 博多 12月2日）
- ・高校1・2年生の進路指導に関わる説明会及び公開・体験授業（麻生専門学校 12月7日）
- ・九州大学共創学部説明会（九州大学伊都キャンパス 3月11日）
- ・第40回進路学習セミナー（東洋大学 白山キャンパス 3月26～27日）

⑦ ICT活用教育研修

- ・第8回教育ITソリューションEXPO（東京ビッグサイト 5月17～19日）
- ・New Education Expo 2017 in 福岡（福岡赤坂センタービル 6月2日）
- ・New Education Expo 2017 in 大阪（大阪マーチャングッズ・マート 6月15～17日）
- ・Power point 入門コース（KCS福岡情報専門学校 8月3日）
- ・教職員対象研修会 最近の情報リテラシーについて（KCS福岡情報専門学校 8月4日）
- ・ロイノートを使った共創ワークショップ（大阪大学 10月28日）
- ・岡山県立林野高等学校とシステックITソリューション株式会社訪問（11月27～28日）
- ・教育情報キャリアポリシーに関するガイドライン説明会（富士通株式会社 博多 12月1日）
- ・情報教育対応教員研修セミナー（KCS福岡情報専門学校 12月27日）
- ・東北学院中学校・高等学校訪問（2月22～23日）
- ・Classi導入・活用説明会（Classi九州支社 福岡市 3月10日）

⑧教育全般

- ・第26回全国カトリック学校校長・教頭合同研修会（セントコア山口 6月22～23日）
- ・私立学校初任者研修 九州地区研修会（ホテル龍登園 7月5～7日）
- ・三四郎の学校第17回ワークショップ視察（福岡 みやこ町中央公民館 7月17日）
- ・長崎県私立中学・高校 教頭・副校長会夏季研修会（雲仙 7月27～28日）
- ・第47回長崎県私学教育研修会（矢太樓 7月31日～8月2日）
- ・平成29年度司書教諭 スキルアップセミナー（大村市中央公民館 8月2日）
- ・駿台教育研究セミナー（駿台外語&ビジネス専門学校 8月12～13日）

- ・学校体育指導者夏期実技講習会（長崎女子短期大学 8月17日）
- ・第11回 2017年度 私学「学校力強化」カンファレンス（ホテル日航福岡 9月21日）
- ・長崎県高校教頭・副校長会秋季研修会・総会及び九州各県大会（セントヒル長崎・ブリックホール 10/4～6）
- ・キャリアガイダンスセミナー2017（メルパルク京都 11月5日）
- ・私学マネジメント定例セミナー「新時代に向けた学校改革」（TKP 博多 11月22日）
- ・長崎県高校教育研究会 学校保健部研究発表会（長崎県立総合体育館 11月22日）
- ・KAN KOスクールソリューション2018（福岡国際会議場 12月6日）
- ・「次世代を担う高校生の資質・能力を育成する指導改善プロジェクト」中間報告会（口加高校 12月11日）
- ・「次世代を担う高校生の資質・能力を育成する指導改善プロジェクト」中間報告会（西彼高校 12月20日）

(5) 中高大連携活動

- ① 高校Ⅱ年文英コース対象の長崎純心大学のネイティブ講師による授業の実施
（前期 5/19 5/26 6/9 6/30 後期 11/10 11/17 1/26）
- ② 『レアジョブ』オンライン英会話レッスン（中学2年生への長崎純心大学教科課程履修者による指導）（5/18 5/25 7/6 7/13）
- ③ 高Ⅲ対象 長崎純心大学教員・学生による学科案内（6月22日 於：ロザリオ館4階 視聴覚室）
- ④ 全学年対象オープンキャンパス参加（7月1日）
中学（4人）高Ⅰ（59人）高Ⅱ（69人）高Ⅲ（72人）計204人 保護者48人
- ⑤ 「イングリッシュカフェ」… 中学生希望者21名（7月21～22日）
- ⑥ 英語情報学科の授業見学… 高校Ⅱ年英語コース対象 32名（10月26日）
- ⑦ 英語情報学科より『英情 Newsletter』（月に1度）をいただき、生徒に配布
- ⑧ 高校Ⅲ年 純心大学進学者に対する「入学前教育」（2月19日）

(6) 平和教育

- ① 世界平和を願って、聖堂で朝7時55分からロザリオの祈りをクラスごとに実施（65年目）
- ② 高校Ⅰ年生 平和学習… 被爆者の体験を語り継ぐ「交流証言者」松野氏の講演会
（6月24日）
- ③ カトリック長崎大司教区平和推進委員会主催「沖縄平和学習」参加
（7月31日（月）～8月3日（木）高校生1名）
- ④ 長崎殉難教え子と教師の像 慰霊式参列… 中学生徒会10名参加
（8月3日 平和記念会館）
- ⑤ 2017 広島ピーススタディに 中学生1名・高校生1名参加（広島市内 8月5～6日）
- ⑥ 本校で行われた、東京都国立市国内交流事業「子ども長崎派遣平和事業」（小学生16名）に、純心高校生徒会役員が参加し、戦争と平和について意見交換を行った。吹奏楽部と高校合唱部の協力演奏が感動の余韻を残した（8月8日）。
- ⑦ 被爆72周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典（8月9日）

- ・中学生 3 名が出席した。
- ・高Ⅰ、高Ⅲ音楽選択者が「千羽鶴」を合唱（1956年から 61回）
- ⑧長崎原爆純心学徒隊慰霊祭（校内）に中学生・高校ⅡⅢ年生が参加（8月9日）
- ⑨第 11 医療隊記念碑（川平）清掃奉仕（11月11日 中高生徒会・ミゼリコルディアクラブ）
- ⑩鹿児島純心女子中学校の 1 年生が、平和学習のために来校（10月27日）
- ⑪中学 2 年生が、沖縄修学旅行で沖縄戦の学びを通して平和の尊さを学習
（12月11日～13日）
- ⑫『永井隆 生誕 110 年記念行事』出演（生徒会・放送部・高校音楽部）（2月3日）
- ⑬高校Ⅲ年生の進路決定者が長崎原爆資料館見学（2月下旬にクラスごと）
- ⑭高校Ⅱ年生が、青少年ピースボランティア育成事業で広島市へ派遣される。
（2月10日～11日）
- ⑮『永井隆 生誕 110 年記念行事』において、高校音楽部と放送部が「永井隆と純心」をテーマに発表を行った。（2月3日 於：長崎原爆資料館ホール）

(7)地域貢献

- ①吹奏楽部 クルーズ船出港セレモニーでの演奏（松ヶ枝埠頭ターミナル 5月・10月）
- ②中学ボランティア部 … キャップリサイクル・恵の丘原爆ホームボランティア・純心幼稚園のお手伝い 他
- ③高校ミゼリコルディア部
献血の呼びかけ・あしなが学生募金・声の奉仕マリア文庫ボランティア・24時間テレビ募金活動・学童保育「ひだまりクラブ」ボランティア・長崎県障害者スポーツ大会ボランティア 他

(8)活動部門 表彰

【中学校】

- ① 日本私立中学高等学校連合会会長賞 3 年生〈1名〉
- ② 第 24 回おかあさんの詩コンクール 学校賞
- ③ 第 39 回全日本中学生水の作文コンクール
優秀賞（長崎県）2 年生〈1名〉（全国審査 佳作） 入選 3 年生〈1名〉（全国審査 佳作）
- ④ 平成 29 年度明るい選挙啓発書写コンクール 特選 2 年生〈1名〉 3 年生〈1名〉
- ⑤ 第 20 回キューブ活用コンテスト 純心中学校（2年・3年） 優秀賞
- ⑥長崎市スポーツ奨励賞 バasketボール部 3 年生〈2名〉
- ⑦長崎県選抜選手認定 バasketボール部 1 年生〈1名〉
- ⑧バレーボール部
 - ・筑豊未来会杯第 11 回中学生女子バレーボール大会 第 3 位
 - ・第 47 回協会長杯中学生バレーボール大会 準優勝
 - ・第 12 回さつき杯中学バレーボール大会 第 3 位
 - ・長崎市中学校総合体育大会 準優勝
 - ・長崎県中学校総合体育大会 第 3 位
 - ・長崎市中学校バレーボールプレ新人大会 準優勝

- ・長崎市中学校総合体育大会新人大会 優勝 (2連覇)
- ・第24回福岡大学招待中学生バレーボール大会 優勝
- ・第35回福岡フレッシュカップ中学校女子バレーボール大会 優勝
- ・第13回別府市長杯九州中学校冬季バレーボール大会 優勝
- ・平成29年度ウインターカップ 第3位
- ・第1回時津・長与CUP中学バレーボール大会 準優勝
- ・第21回ブルーウェーブカップ中学生女子大会 優勝 (2連覇)
- ・第17回東彼杯中学校女子バレーボール大会 優勝
- ・長崎市春季選手権大会 準優勝
- ・第12回長崎県立西彼青年の家杯 優勝

⑨バスケットボール部

- ・第46回長崎新聞社杯争奪中学校大会 第3位
- ・第14回SAGAバルーンカップ中学生バスケットボール大会 準優勝
- ・長崎市中学校総合体育大会 準優勝
- ・長崎県中学校総合体育大会 第3位
- ・コヤスポカップ2017 ベスト8
- ・第47回長崎市市長杯中学校バスケットボール大会 第3位
- ・長崎市中学校総合体育大会新人大会 第3位
- ・長崎県中学校総合体育大会新人大会 ベスト8
- ・「第31回全国都道府県対抗ジュニアバスケット競技」長崎県選抜選手 1年生〈1名〉

⑩体操部

- ・長崎市中学校総合体育大会 団体 準優勝 個人 第3位・第4位
- ・長崎県中学校総合体育大会 団体 第4位
- ・長崎市中学校総合体育大会新人大会 団体 優勝
- ・長崎県中学校総合体育大会新人大会 団体 第3位

⑪ソフトテニス部

- ・第6回チャレンジカップ Cクラス 団体 優勝

⑫水泳

- ・長崎市中学校総合体育大会 100m自由形 第4位 200m個人メドレー 第4位

⑬コーラス部

- ・平成29年度長崎県中学校文化活動推進校に選出
- ・第72回九州合唱コンクール長崎県大会 金賞
- ・第72回九州合唱コンクール 銀賞
- ・第84回NHK全国学校音楽コンクール 長崎県大会 銀賞
- ・ヴォーカルアンサンブルフェスティバル もってこ〜い賞 長崎純心大学長賞

【高等学校】

- ①第2回長崎県佐賀県合同高校生模擬裁判選手権大会 優勝
- ②長崎市スポーツ表彰 1年生〈2名〉(陸上部)
- ③長崎県高等学校体育連盟表彰 1年生〈2名〉(陸上部)

④全国高体連陸上競技専門部表彰 II年生〈1名〉 I年生〈2名〉

⑤高校II年生〈1名〉

- ・高校生のための歌曲コンクール（声楽） 優秀賞
- ・第31回ながさき若い芽のコンサートオーディション（声楽） 優秀賞

⑥高校I年生〈1名〉

- ・第41回ピティナピアノコンペティション長崎地区予選
E級ソロの部 優勝 連弾中級Aの部 優勝
- ・日本バッハコンクール in 大分 最優秀賞

⑦陸上部

- ・平成28年度ジュニアスポーツ事業強化選手に選出 I年生〈2名〉 II年生〈1名〉
- ・第72回国民体育大会強化指定選手に選出 I年生〈2名〉 II年生〈1名〉
- ・第46回ながさきリレーカーニバル

走幅跳 優勝 走高跳 優勝 4×100mR 優勝・第2位 4×400mR 優勝

- ・長崎県高等学校総合体育大会 初の総合優勝

100m 第2位 200m 優勝・第2位 400m 優勝・第4位 100mH 第3位・第4位
400mH

第2位 七種競技 優勝 走幅跳 優勝 走高跳 第2位 三段跳 優勝・第4位 やり投
第4位 円盤投 第6位

4×100mR 優勝 4×400mR 優勝（大会新）

- ・全九州高校体育大会 第69回全国高校選手権大会北九州地区予選会

400m 優勝 七種競技 優勝 走高跳 第6位 三段跳 第3位 4×100mR 第5位
4×400mR 第4位

- ・第16回長崎県高校陸上競技選手権大会

100m 第2位・第5位・第7位・第8位 少年B100m 優勝 400m 優勝 100mH 第3
位・第4位 ハンマー投 第7位 4×100mR 第2位・第3位・第4位・第5位

- ・第72回国民体育大会陸上競技長崎県予選

少年A100m 第2位・第6位・第8位 少年B100m 第5位・第7位 少年A400m 第
5位 800m 第7位 少年A走幅跳 優勝 少年B100mH 優勝・第2位・第6位 走高
跳 第5位 少年A走幅跳 第7位 少年B走幅跳 第6位・第8位 少年共通三段跳 第
2位 少年共通やり投 第3位 少年共通円盤投 第7位

- ・全九州陸上競技選手権大会

200m 第5位 100mH 第6位 走幅跳 第7位 4×100mR 第4位・第7位

- ・長崎県高等学校新人体育大会 初の総合優勝

100m 第2位 200m 優勝・第3位 400m 優勝 100mH 第3位 400mH 第3位 七
種競技 優勝 走幅跳 優勝（大会新） 三段跳 優勝（大会新） 4×100mR 優勝 4×400
mR 優勝（大会新）

- ・第35回全九州高等学校新人陸上競技大会 総合準優勝

400m 優勝 100mH 第3位 三段跳 第2位 走幅跳 第3位 七種競技 第3位

4×100mR 第5位 4×100mR 第8位

・長崎市陸上競技選手権大会

走高跳 優勝 やり投げ 優勝 100m 第5位・第6位 100mH 第3位・第4位

走高跳 第2位・第5位 400m 第6位 4×100mR 優勝・第6位 4×100mR 第5位

⑧弓道部

・第20回長崎地区弓道選手権大会 団体 優勝 個人 第3位・第4位

・第26回K T N杯争奪長崎県弓道大会 団体 準優勝

・第56回長崎県高等学校弓道選手権大会 団体 準優勝

・長崎県高校総合体育大会 個人 優勝・第2位 (インターハイ出場)・第3位 (九州大会出場)

・長崎市民レクレーション祭 団体 優勝 個人 優勝

・第63回全九州高校弓道競技大会 個人 第5位

・長崎地区高校新人体育大会 団体 第3位

⑨バスケットボール部

・第40回長崎地区高等学校新人大会 第3位

⑩バレーボール部

・長崎地区高校1年生大会 優勝

・第10回長崎県協会長杯 第3位

・長崎地区高等学校新人大会 優勝 (2連覇)

・長崎県高等学校新人大会 第3位

・長崎地区高等学校春季選手権大会 第3位

・第29回諫早市バレーボール協会長旗大会 第3位

⑪ソフトテニス部

・長崎県個人選抜大会 個人 第3位

・長崎県高等学校総合体育大会 団体 準優勝 (九州大会出場)

・第50回長崎県島原大会 個人 準優勝・ベスト8

・第22回長崎市ジュニア団体選手権大会 団体 優勝

・雲仙カップ九州高等学校女子選手権大会 団体 優勝

・長崎地区高等学校新人体育大会 個人 優勝・ベスト8

・長崎県高等学校新人体育大会 個人 第3位 (九州大会出場)

・長崎県高等学校選抜大会 団体 第3位

・長崎市春季クラブ対抗選手権大会 団体 優勝

・長崎地区高校春季選手権大会 個人 第3位・ベスト8 (2ペア)

・第24回ルーセントカップ争奪選手権大会 一般女子B 優勝

⑫ハンドボール部

・長崎地区高等学校新人体育大会 準優勝

⑬空手道部

・長崎県高校総合体育大会 団体組手 準優勝 (九州大会出場) 個人組手 第5位 (九州大会出場)

- ・第 66 回全九州高等学校総合体育大会 団体組手 ベスト 8 個人組手 ベスト 8
- ・第 40 回長崎県高等学校新人大会 団体組手 準優勝（九州大会出場）

⑭体操部

- ・長崎県高等学校総合体育大会 団体 準優勝（九州大会出場）
- ・長崎県高等学校新人大会 団体 準優勝

⑮水泳

- ・第 48 回長崎市高等学校春季大会 100m 背泳 優勝 50m 背泳 第 2 位
- ・長崎県高等学校総合体育大会
200m 背泳 優勝（九州大会出場） 100m 背泳 優勝（九州大会出場）
200m バタフライ 第 5 位（九州大会出場）
- ・長崎県高等学校新人大会
200m 背泳 優勝（九州大会出場） 100m 背泳 優勝（九州大会出場） 50m 背泳 優勝

⑯テコンドー

- ・第 12 回長崎県テコンドー選手権大会 準優勝
- ・第 28 回全九州テコンドー選手権大会 準優勝

⑰アーチェリー

- ・長崎県春季アーチェリー大会 個人 第 2 位
- ・長崎県高等学校総合体育大会 個人 第 3 位
- ・長崎県高等学校新人体育大会 個人 第 3 位
- ・九州高等学校アーチェリー室内競技大会 優勝
- ・第 7 回ネットワークインドア大会（長崎会場）女子の部 優勝

⑱水球

- ・第 10 回全日本ユース選手権大会 九州地区予選会（長崎県選抜チーム選手 高 I）第 3 位
- ・第 4 回全日本ジュニア水球競技大会 九州地区予選会（長崎県選抜チーム選手 高 I）優勝

⑲音楽部

- ・平成 29 年度長崎県高等学校文化活動強化指定推進校に選出
- ・第 72 回九州合唱コンクール県大会 金賞 代表杯受賞
- ・第 72 回九州合唱コンクール 金賞（連続 18 回金賞）
- ・第 24 回ヴォーカルアンサンブルフェスティバル アンサンブル賞 長崎純心大学長賞
- ・「6 校合同音楽祭」（5 月 20 日 於：本校聖堂）
- ・「祈り・平和・希望コンサート」（NBC ビデオホール 3 月 27 日）

⑳吹奏楽部

- ・「恵の丘ときわ荘演奏会」（4 月 30 日）
- ・第 2 回校内アンサンブルコンサート（10 月 9 日 本校ロザリオ館 5 階ホール）
- ・出港セレモニー演奏（松ヶ枝埠頭ターミナル 9 月 10 日・3 月 26 日）
- ・第 62 回九州吹奏楽コンクール長崎県予選 銀賞（7 月 23 日 アルカス佐世保）
- ・第 44 回長崎県アンサンブルコンテスト 金賞（金管六重奏）（12 月 17 日 諫早文化会館）

- ・第5回吹奏楽部定期演奏会（1月27日 長与町民文化ホール）

㉑演劇部

- ・長崎県高校総合文化祭演劇部門県南地区大会 最優秀賞
- ・長崎県高校総合文化祭演劇部門長崎県大会 優良賞 審査員特別賞

㉒写真部

- ・第8回長崎写真コンクール カステラ賞
- ・長崎県総合文化祭 第13回長崎県高校写真展 優良賞

㉓放送部

- ・第64回NHK杯全国高校放送コンテスト県南地区大会
アナウンス部門 優秀賞（1名）優良賞（1名）朗読部門 優秀賞（1名）優良賞（1名）
- ・第64回NHK杯全国高校放送コンテスト長崎県大会
ラジオドキュメント部門 優秀賞（全国大会出場）朗読部門 優良賞
- ・第64回NHK杯全国高校放送コンテスト 全国大会 ラジオドキュメント部門 優良賞
- ・第39回九州高校放送コンテスト県南地区大会 アナウンス部門 優良賞

㉔美術部

- ・長崎県総合文化祭 美術部門 絵画 優良賞（2名）

㉕図書委員会

- ・第14回ライブラリーフェスティバル長崎県大会 図書館広報誌コンクール 優良賞
図書館PR大賞コンクール 優良賞

(9)施設設備

- ①中学全学年に『eラーニング教材すらら』を導入
- ②中学校に、教育のための情報環境整備として、iPad（60台）を導入（計240台となる）
- ③高校のICT教育の拡充のために、
 - ・Ⅱ類（高Ⅰ）用iPad（8台）を導入
 - ・通常教室及び特別教室へのプロジェクター設置（電子黒板機能付き）（34台）
 - ・教室の無線LAN化（高機能化設備補助）
- ④教務データベース（成績管理システム）の機能の充実
 - ・入試システム等の導入
- ⑤裏門周辺の道路整備(12/22～24)

(10)特記事項

- ①高校のコース制改革 … Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅲ類
- ②中学「第1回校内レシテーション・スピーチコンテスト」実施（9月2日）
- ③中学3年生「第1回校内達成度テスト」実施（2月2日）
- ④陸上部が、創部以来31年目、長崎県高校総合体育大会と長崎県高等学校新人体育大会で初の総合優勝を果たした。
- ⑤「いじめ防止基本方針」改定(2017年12月 ホームページ掲載)
- ⑥第1回「HOMECOMING DAY お帰りなさい 卒業生」を実施（9月16日 於：学生食堂
50余名参加）
- ⑦『永井隆生誕110年記念行事』（主催：長崎如己の会 2018年2月3日 於：長崎原爆資

料館ホール)

高校生徒会・音楽部・放送部が「永井隆と純心」のテーマで発表

⑧『紀要（第37号）』発行（3月）

(11)総括(平成29年度の主な実施事業について)

①高校のコース改革を行い、Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類とした。Ⅰ類は従来の国公立コース、Ⅲ類は総合コース、Ⅱ類は勉学と部活動の両立のための新コースである。初年度であるが、それぞれのコースの特色を明確に出して進めているところである。Ⅱ類を導入したことにより、部活動の部員の中で、勉学に前向きに取り組む姿が見受けられるようになり、この動きが学校全体に波及しているように実感され、大変うれしく思っている。

②今年度は、各教員がそれぞれの教科・校務の立場で、ICT教育・キャリア教育・アクティブラーニング型授業を学び、実践を開始した1年であった。

ICT教育は、中学では、ほぼ全教員がICT機器を用いて授業を行っている。高校においては、Ⅱ類で実施している。今年度までに、無線LAN化等ハード面を整えたので、次年度は、全教員がICT教育を学ぶ1年となる。2019年度からは、全員が授業に導入して、より効果的な魅力あふれる授業を実施できることと期待している。

キャリア教育については、今年度、キャリア教育委員会が『純心のキャリア教育』を作成したので、今後、これに則って動いていきたい。

アクティブラーニング型授業については、現在、授業に導入して成果を上げている教員・成果を出すために模索しながら進めている教員・導入していない教員とまちまちである。しかし、教育界の流れとして、アクティブラーニング型授業は必須になると考えられるので、個々の教員が自分に合った方法を学びながら体得し、実施してほしいと思っている。

③英語科の教員を中心に、グローバル教育に力を入れた年となった。今年度、新たに実施したことを下記に列挙する。

・『レアジョブ』オンライン英会話レッスン(中学2年生 5/11 5/18 5/25 7/6 7/13)

・中学『第1回校内レシテーション・スピーチコンテスト』(9月2日)

・長崎市国際交流員による文化交流講座(高Ⅰ・Ⅱ 11月13日)

・純心英検セミナー(高校生 希望者対象 48名 1月4日～6日)

オンライン Weblio 英会話・長大留学生(9名)によるセミナー・語彙学習・多聴多読

結果として、英語力の向上が、大学入試結果・実用英語検定結果に表れており、引き続き次年度も実施の予定でいる。生徒たち自身が社会の動きの中にグローバル化を肌で感じ取っていることが、英語を始めとする他国の言語に関心を持ち始めた理由の1つと推測される。小学6年生で英検3級を取得する時代になっているので、本校においても英語教育への取組の加速化が求められている。

④平和教育には今年度も力を入れた。

・朝のロザリオの祈り(65年目)

・8月9日の長崎市平和祈念式典での合唱(61年目)

・一昨年の8月8日、東京都国立市国内交流事業「子ども長崎派遣平和事業」(小学生20名余)に、純心高校生徒会役員が対応し、戦争と平和について意見交換を行ったが、本年

度も来校され、大変有意義な時間を過ごしていた。次年度も来校の予定である。

- ⑥陸上部が創部以来（31年目）初めて、長崎県高校総合体育大会で優勝し、インターハイに出場した。9月に行われた長崎県高等学校新人体育大会でも初優勝に輝いた。陸上部員の活躍は、全校生に元気を与える。幸い、どの部活動も活発に行われているので、これからも声援を送っていきたい。
- ⑦海外学校交流では、毎年、韓国釜山のテレサ女子高等学校との交流を行っていたが、朝鮮半島情勢に鑑み、今年度は実施しなかった。（次年度は、本校生は行かないが、テレサ女子高校からは来校の予定）これからの中学・高校の在り方として、海外の学校との交流は必須になると思われる。次年度は、香港の高校2校が6月に来校の予定である。留学する生徒も複数出始めたので、海外への動きを本腰で考える組織をもつことが求められるのではないかと考えている。
- ⑧募集・広報活動においては、生徒募集・企画委員会を中心に、アイデアを出し合って実行しているのだが、厳しい現実である。学校の特色を明確に、かつ、わかりやすく伝えて、入学の増加につながるような広報活動を考え、実行していくことが求められている。学校の広報のためには、進学・部活動での実績・結果が求められるので、学校全体でPDCAを繰り返しながら、学校の魅力をピーアールできるものを増やしていく努力を行わなければならないと考えている。
- ⑨本校の生徒のカラーとして、大変素直でまじめな生徒が多いのだが、主体性に欠ける生徒も多い。昨年の生徒と保護者のアンケートでは、家庭学習の習慣が身に付いていない、学習に積極的に取り組もうとする意欲がわからないなど、学習活動面での課題も指摘されている。現代社会に求められている人間像を度々意識しながら、社会に貢献できる女性を育成するために、教職員が一丸となって教育に全力を注ぐ新年度としたい。

5. 幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園

(1) 幼稚園の運営

①定員 250名

園児数状況

年齢 (歳児)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	2	4	5	6	7	7	8	8	9	9	10	10
1	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13
2	12	12	12	16	16	18	19	21	23	24	24	26
3	74	75	74	74	74	78	77	77	77	77	78	78
4	73	73	72	71	70	70	70	70	70	70	70	70
5	51	51	51	51	51	52	52	53	53	53	53	53
計	224	228	228	230	230	237	239	242	245	246	248	250
入所率	89	91	91	92	92	94	95	97	98	98	99	100

(%)

- ②職員数 平成 29 年度初 51 名 正職 22 名 非常勤 29 名 〈 派遣 4 名 〉
平成 29 年度末 54 名 正職 22 名 非常勤 32 名 〈 派遣 4 名 〉

③職員会議開催状況

毎月一回、こども園としての園長・副園長・主任会を行い、全体のこと、次月の教育保育内容、行事の様子や問題点、気づきを出し合い職員会議の資料を作成した。職員会議は、0才～3才クラスはお昼寝の1時45分・3才～6才クラスは終礼前の3時30分から月一回正規全員参加ができ、非常勤職員も1名は参加出来るよう考慮して開催した。外部研修参加があった時は参加職員による研修報告伝達を随時行った。その他検討事項が出てきた場合は、その都度話し合いを行い、内容等は会議録として記し非常勤も含め全職員に閲覧して職員間の共通理解に努めた。

(2)保育・教育目標

「子どもが愛されている幸せを感じるまでの心からの奉仕」を目標として教育保育に努めた。

初代園長のお言葉を生きようと「いやなことは私がよろこんで」を標語にあげ、まずは教職員から笑顔で挨拶、自分にできる奉仕を喜んで実践し子どもたちにも毎日の教育保育の具体的な示唆としてきた。

(3)教育・保育の状況

教育保育時間 8：30～14：30 (延長保育 7：30～8：30 14：30～19：30)
保育短時間 8：30～16：30 (延長時間 7：30～8：30 16：30～19：30)
保育標準時間 7：30～18：30 (延長時間 18：30～19：30)

(4)教育・保育内容

- ①一人ひとりを大切にする温かい関わり合いの中で、神さまの愛と生命の尊さを知り、愛と奉仕のできる子どもの育ちを目指した。
- ②0才～3才クラスのモンテッソーリ教育の充実を図るため、担当主任とクラス担任が園見学を行った。クラス編成・環境設定・保育者の役割を再確認し園内研修を行った。平成30年度より、0才～3才クラスの名称変更、クラス担任の変更、環境設定の変更を具体的に变えての実施を企画した。
- ③3才～6才クラスのモンテッソーリ教育も実習専門の担当を位置付け具体的な研修を導入し、個別活動の時間を充実させることが出来た。
- ④地域交流として芋掘り、施設訪問、勤労感謝訪問など地域の方とのふれあいを持った。

(5)給食の実施状況

- ①毎月1回の給食検討会を持ち、年齢に応じた配膳や個別の対応を検討した。
- ②アレルギー体質の子どもへの対応は、栄養士と保護者との個別面談を実施し医師の診断書のもとに連携を密にし「アレルギー除去食依頼書」を提出していただき事故のないよう全職員に周知した。
- ③愛情弁当の日を毎月1回(0・1歳児は10月から)設定。親子で食への興味を持っていただけるよう、保護者参加の試食会を1回行い給食メニューの紹介や園児の食育への理解を深めた。

(6)職員研修

- ①園内研修は毎月行いモンテッソーリ教育の個別活動の見直しから、特別支援のケース会議の時間を持った。専門機関に繋がるお子様や保護者のケアと合わせてなり臨床心理士の指導支援を受けた。
- ②モンテッソーリ教育においては主任と担任1名が長崎純心大学のコース養成と併せて大学や研修先での情報を提供し園内での学びを深めた。
- ③園外研修はモンテッソーリ教育や特別支援に関する県や市の主催する研修会に参加し研鑽をつんだ。また、外部講師による宗教教育研修を年3回行い、希望する非常勤職員にも参加を促し現場で具体的な宗教教育に繋がるよう努力した。

(7)小学校連携

- ①進学先の小学校との交流事業を通して年長児が小学校生活への期待を持ち、小学校の雰囲気より良く知ること幼稚園からの移行をスムーズにすることを目的とした。不安を持っていた子どもたちも交流を通して入学への期待も膨らんできた。今年度は小学校から入学予定児の観察依頼の希望があり対応に迫られた。

(8)長崎純心大学との連携

- ①児童保育学科の教員に指導をいただき、年長児が卒園記念作品を泥粘土活動で制作した。その後は、自然探索を楽しみ聖堂でお祈りを捧げて大学の雰囲気を楽しんだ。
- ②絵画活動は美術作品展示の現場でも直接指導をいただき、その中で具体的な保育教諭の環境設定・指導・観察の指導をいただいた。
- ③幼稚園実習の受入、またモンテッソーリ教師養成コース実習受入時期はコースから2名のスタッフが実習指導に直接関わって頂いた。

(9)純心聖母会との連携

- ①毎月1回純心聖母会主催の聖書勉強会に職員が自由に参加できるようシフトを組み、勉強会で学んだことを教育保育に生かせるようにした。
- ②保護者の聖書勉強会（カンターボ）も毎月テーマを決めて呼び掛けたところ数名の保護者が年間継続して参加された。

(10)苦情解決第三者委員

苦情解決責任者： 園長

苦情解決受付： 副園長

第三者委員3名： 民生委員 1名、 学術経験者 2名

・苦情受付は年間を通してありませでした。

(11)健康管理の実施状況

1)児童

- ①小児科： 年2回（5月、11月）園嘱託医による内科検診を実施した。
- ②歯科： 年1回（6月）園嘱託歯科医による歯科検診を実施した。
- ③尿検査（3歳以上）を5月に実施した。
- ④季節に応じて、健康管理、感染症などの注意を促した。感染症流行の兆しがある場合等はお知らせアプリで随時お伝えし、室内の換気及び空気清浄機を活用して感染の拡大を最小限にとどめるよう努めた。

⑤毎月、身長・体重測定を行った。

2)職員

①定期健康診断

年1回、西九州健康診断本部診療所による健康診断を全職員に実施した。

②検便

月1回、専門業社に依頼し、「赤痢・サルモネラ菌」「病原性大腸菌（O-157）」の検査を責任者と給食職員、乳児担任は毎月、全職員も年に1回は実施した。

(12)施設整備

固定資産物品 (10万以上)

- ・空調設備工事：3F—第2講義室 2F—遊戯室 1F 応接室
- ・AED購入 玄関受付横設置

(13)修繕及び修理

- ・コンビオープン修理 4月
- ・1.2.3F 保育室 図書館他 LED 取替工事 5月、10月
- ・ボイラー部品交換 7月
- ・2F トイレ、更衣室換気扇取替工事 7月
- ・園庭掘削工事 ゴムチップ舗装工事 12月
- ・純心こども図書館 銘板塗替工事 1月
- ・玄関外壁タイル補修工事 2月

平成 29 年度 行事

4月	6 始園式 8 入園式 12 クラス懇談会 20 歓迎遠足 25.26 年長園外保育 ※避難訓練 (毎月)
5月	8-10 視力聴力検査 10.11 内科検診 (1回目) 13 ファミリーデー 24 4・5 月誕生会 ※
6月	9 36 クラス芋苗植え 7 参観日 14 歯科検診 15 03 芋苗植え 28 交通安全指導 ※
7月	3 6・7 月生誕生会 7 七夕かざり 12 すいか割り 15 夕涼み会 19 終園式 ※
8月	28-31 夏期保育 ※
9月	1 始園式 9 運動会 20 8・9 月生誕生会 ※
10月	3~5.10.18. 園外保育 7 入園説明会 11 交通安全指導 13.14 お泊り保育 16 お店屋さんごっこ 17 聖母行列 18.19 内科検診 (2回目) ※
11月	3 バザーお芋掘り 7 10・11 月生誕生会 6-8 個人面談 11 入園面接 (1号) 14 七五三お祝い会 21 勤労感謝訪問 ※
12月	9 クリスマス会 11.12 施設訪問 13 クリスマスパティー 19 終園式 ※
1月	9 始園式 13 導入保育 (1回目) 15 12・1 月生誕生会 19.26 泥粘土制作 30~2/2 面談 31 人形劇 ※

2月	1 豆まき 5 2・3月生誕生会 6 26 聖人巡礼 17 導入保育 (2回目) 21.22 参観 27 お別れ遠足 28 交通安全指導 ※
3月	1 卒園感謝ミサ 3 入園説明会 6 お別れ会 10 卒園式 19 終園式 17.20 導入保育 (3回目) ※

避難訓練(※)

月 日	訓練内容	災害発生場所	避難場所
4/27	消火訓練	乳児室	園庭
5/22	火災・消火訓練・通報訓練	ほっともっと	園庭
6/26	水害	浦上川	2F ホール・ホーリーコーナー
7/10	地震による火災	給食室	机の下→園庭
8/23	水害	浦上川氾濫	3F サンタマリアホール・2階教室
9/25	火災・消火訓練	乳児室	園庭 (雨天のためランチルームへ)
10/16	地震による火災	給食室	机の下→園庭
11/15	火災・消火訓練	給食室	園庭 ほし、さくら前
12/21	不審者対応 地震・火災訓練	玄関 2F 給湯室	各クラス→園庭 (雨天のためランチルーム)
1/25	火災	ボイラー室	1 F さくら・ばら組
2/13	北消防署と合同訓練	乳児室	園庭
3/14 *予告なし	地震・火災訓練	*放送を聞いて ほっともっと	*放送を聞いて 園庭

【平成29年度 職務分掌】

幼保連携型認定こども園 長崎純心大学附属純心幼稚園

職務	業務内容	職務に係わる役割
総括責任者 園長	運営管理総括 防火・衛生管理 会計管理 苦情解決責任	各職員への人員配置及び役割指示 各法令の遵守状況監視 各担当の業務遂行の状況の把握と教育 クレーム処理
副総括責任者 副園長	園長補佐 教育全般責任 幼小連絡責任 職員勤務管理 苦情受付担当 教育課程責任	見学・入園相談窓口 各クラスの教育・保育の状況の把握 小学校との連絡・接続の把握と研究 職員のシフトの作成 保護者の相談窓口 教育課程作成
	子育て支援 行事責任者	子育て支援計画の作成 企画書の作成管理

主任 03 クラス	教材物品責任 特別支援責任 保護者会担当 実習担当 バスコース担当	教材物品管理及び発注 個別支援支援計画の作成と管理 保護者会との相談 実習生の受入と養成校との連携 バスコース編成作業・バス停確認作業
主任 36 クラス	保育全般データ責任 子育て支援 行事責任者 教材物品責任 特別支援責任 保護者会担当 実習担当 バスコース担当	年間計画全般の管理 子育て支援計画の作成 企画書の作成管理 教材物品管理及び発注 個別支援支援計画の作成と管理 保護者会との相談 実習生の受入と養成校との連携 バスコース編成作業・バス停確認作業
にじ 0 歳児 クラス担任(2)	保育記録 保育室衛生管理 楽器管理	年間計画・月案・週案・個人記録 掃除・照明・換気・保育用品の消毒 楽器用品管理
ほし 1 才児 クラス担任(2)	保育記録 保育室衛生管理 教材管理 医務管理	年間計画・月案・週案・個人記録 掃除・照明・換気・保育用品の消毒 教材室管理 医務用品管理・購入責任
そら 2 歳児 クラス担任(2)	保育記録 保育室衛生管理 安全点検 中期目標計画責任 学園広報責任 園内倉庫管理	年間計画・月案・週案・個人記録 掃除・照明・換気・保育用品の消毒 園庭及び遊具管理 平成 29 年度までの計画作成 園内外研修計画作成 学園広報原稿依頼窓口 各倉庫の整理・整頓・在庫管理
3.4.5 歳児 クラス担任(7)	保育記録 保育室衛生管理 体育道具管理 中期目標計画責任 HP 更新担当 ゴミステーション責任	年間計画・月案・週案・個人記録 掃除・照明・換気・保育用品の消毒 体育道具点検・管理 平成 29 年度までの計画作成 園内外研修計画作成 ブログ・お知らせ・変更作業 ゴミステーション管理(掃除計画)
事務職員	事務全般責任 受付・電話窓口業務 保育用品・制服管理 保育料管理	全園児名簿・職員名簿・台帳管理 受付対応・電話対応・来客接待 保育用品・制服注文受付・発注 負担金・バス維持費・給食費・預かり保育費

管理栄養士	県・市の書類管理 運営費請求 預かり保育事務処理 シフト集計 栄養管理 アレルギー対応 環境・衛生管理	書類の整理と管理 運営費請求と確認 預かり保育事務処理と報告 非常勤職員の勤務計算 献立作成・アレルギー献立作成・保護者対応 給食材料おやつ発注と集計 検食・配膳作業 調理及び環境管理・火元責任
調理師	調理全般の管理 環境・衛生管理	給食材料検品検収 検便書類管理 調理及び環境管理・火元責任 アレルギー食担当
司書	図書館管理	図書管理（冊数の管理） 図書の貸出 子育て支援補助 図書館通信発行 図書館に関する実績と報告
子育て支援センター	子育て支援責任 子育て相談	子育て支援事業計画作成・報告 バンビ組・てんし組・さくらんぼ組 親子体操・ベビーマッサージ他 育児相談の個別連絡
預かり保育 ピースタイム	一時預かり責任	ピースタイムの計画作成 ピースタイムの保育室の衛生管理 掃除・照明・換気・保育用品の消毒 ピースタイム教材準備

(14)総括(平成 29 年度の主な実施事業について)

平成 29 年度の事業計画は、新制度の認定こども園をスタートして 3 年目を迎え、純心幼稚園がこども園として地域に存在する意味を再検討する年度であった。また、純心幼稚園がモンテッソーリ教育を通して建学の精神とその使命をより確かにするために、0 才～6 才までのモンテッソーリ教育の外部指導と見学研修を実施し具体的な研修計画と環境設定に取り組んだ。

宗教教育ではアトリウム（宗教の部屋）の環境を整備し年間 3 回の研修に参加し研鑽を積んだ。また、園児の身体つくりのため体幹を意識した運動を中心に取り入れ体育教育を強化した。

地域連携では、園外のイベント参加や施設訪問を行い、保育心理士を中心に、特別支援、子育て支援、ケース会議の充実を図り園外への情報発信に努めながら保護者支援にも貢献した。

経営・管理財務管理では各教職員が職務分掌を受け責任をもって管理にあたり、衛生管理委員会を通して個別の情報共有と、園全体での情報共有に取り組んだ。今後は、すべての幼児教育保育の現場がこども園化することは否めない。純心の幼児教育理念を精査し、多様化する社会状況に純心のこども園がそのニーズに応えていけるよう事業計画を展開していく必要がある。

【Ⅲ】財務の概要

■平成29年度決算の概要

純心女子学園の平成29年度財務の概要についてご報告させていただきます。
本学園は平成29年度の計算書類について、平成30年5月末日に文部科学省に提出しております。
提出までの経緯は以下のとおりです。

- ①平成29年度事業計画及び予算に従い執行し、日々の諸活動を計数化
- ②公認会計士による年間30日間の実地調査及び書類調査（平成30年5月11日報告書受理）
- ③公認会計士と本学園監事との意見交換等による連携
- ④本学園監事による計算書及び財務状況の監査実施

平成29年度決算の特徴

- ①大学において「地方創生特待生」制度を開始。
- ②聖心幼稚園の閉園に伴い園舎の取壊し処分の実施。
- ③大学において事務システムの再構築を実施。

以上が平成29年度の主な特徴であり、収支状況に影響を与えることとなりました。

1) 資金収支計算書

資金収支計算書は年間を通しての資金の出入を表すとともに、資金の顛末を明確にするものです。
平成29年度諸活動の資金収入規模は、繰越金を除き約23億2千万円（前年度比約3億7千万円減額）
予算比約1億5千万円の減額となりました。
支出規模は、繰越金を除き約25億4千万円（前年度比約9千万円減額）予算に対し、予備費込みで
2億1千万円の減額となりました。
よって、翌年度繰越支払資金は約6億9千万円（前年度繰越支払資金比約2億2千万円減額）となり
ました。

○資金収入の部

資金収入の主な項目は、学生生徒等納付金・手数料・寄付金・補助金・受取利息・配当金等です。

学生生徒等納付金収入

総額約14億1千万円となり、前年度比約1億円減額となりました。
授業料収入の基礎数は大学（大学院前・後期含む）1,078名、高校587名、中学186名、幼稚園238名の
総数2,089名（前年度比132名減）です。

寄付金収入

寄付金収入は、約9百万円となりました。
平成28年度から、創立100周年に向けて「純心マッチ基金」を開始いたしました。
「純心マッチ基金」では、146名約2百万円のご寄付をいただいております。
貴重なご寄付をいただき、誠に感謝申し上げます。

(円)

基金名	寄付数	金額
純心マッチ基金	146	2,384,981
奨学金基金	1	100,000
教育経費	12	5,817,460
施設設備	3	856,000
合計	162	9,158,441

補助金収入

補助金は、納付金に次ぐ第二の財源となっています。学園全体の補助金内容は、国庫補助金
地方公共団体補助金等を合わせて総額約6億3千万円、前年度比約1億8千万円減額となりました。
平成29年度も大学が取り組んだ「私立大学等経営強化集中支援事業」と「私立大学等改革総合支援
事業」に採択され「私立大学等改革総合支援事業」への取組・強化については、5タイプのうち
タイプ①、タイプ②、タイプ⑤に申請して採択されました。

- ①タイプ1：教育の質的転換(採択)
- ②タイプ2：地域発展(採択)
- ③タイプ3：産業界・他大学等との連携
- ④タイプ4：グローバル化
- ⑤タイプ5：プラットフォーム形成(採択)

今後も引き続き、改革の手を緩めることなく推進してまいります。

受取利息・配当金収入

受取利息・配当金収入は、金利水準が低位に推移しております影響を受けて約5千6百万円、前年度比約6百万円減額となりました。

○資金支出の部

資金支出の主な項目は、人件費・教育研究経費・管理経費・施設設備関係・資産運用等です。

人件費支出

退職金支出を含む教職員人件費支出は約15億8千万円で前年度比約3千万円の増額となりました。平成29年5月1日での役員教職員数（非常勤含む）は406名。（昨年比36名減）うち、退職金支出は約1億2千万円で、退職者数増により前年度比約8千万円の増額となりました。専任教職員数は前年比11名減少しております。また、退職者数は26名でした。

教育研究経費・管理経費

教育研究経費・管理経費は、約5億6千万円で前年度比約8千万円の増額となりました。本年度は、大学において地方創生特待生が開始されたことによる奨学費支出が増加したこと、聖心幼稚園が閉園したことに伴う取壊しや大学の事務システム再構築、大学S棟屋上の防水工事、大学茶室の改修工事等を実施したことが要因となっております。

施設設備関係支出

施設設備関係支出は、約5千万円で前年度比約2億1千万円の減額となりました。前年度は、大学体育館棟の耐震工事等があったことによるものです。

資産運用支出

資産運用支出は主に引当資産積立です。基本金計画に基づき第2号基本金引当特定資産へ6千5百万円、第3号基本金引当特定資産へ約16百万円繰り入れしました。また、平成29年度減価償却額発生分約2億円を減価償却引当特定資産として繰り入れ将来の再取得に備えました。

2) 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金の調達と使用の内容を明確にすることを目的とし、企業会計のキャッシュフローに相当するものです。1) で説明した資金収支計算と取引内容及び費目・金額ともにすべて同じものを目的により区分計上したものです。

①教育活動 ②施設設備等活動 ③その他の活動に区分し、学校法人の資金体質がわかるようになりました。

平成29年度①の教育活動は、約1千百万円のマイナスとなりました。

今後プラスとなるように努力してまいります。

3) 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」は、平成27年度会計基準改正により従来の消費収支計算書が書式変更されております。

教育活動の収支を表します教育活動収支差額は約1億7千万円のマイナス、教育活動外の収支を加味しました経常収支差額は約1億2千万円のマイナスとなりました。

また、特別支出において資産処分差額等を約1億円を計上し、最終的な当年度収支差額は約3億2千万円のマイナスとなりました。

教育活動収支差額等でマイナスとなりましたが、大学においては3学科に統合し、さらに平成31年度入試からは全学科で男女共学とし、また中学校・高等学校ではICT教育を行うなど魅力ある学園作りを推進しプラスとなるように学生・生徒の確保に努力してまいります。

4) 貸借対照表

「貸借対照表」は、平成29年度末日における学園の財政状態と資産の構成を明らかにする財産一覧で、長期的な運営の方向性を決める判断材料となります。また、資産負債のバランスの状況を把握する

ことができます。

総資産は約137億円、前年度比約2億2千万円の減額となっております。

負債は8億1千万円で、借入金の返済などで減少し前年度比7百万円の減額となりました。

純資産の部の合計は約129億円で、前年度比約2億1千万円の減額となりました。

よって、資産の94%は自己資金となっております健全性は確保されております。

なお、貸借対照表の取引基準等については、財務諸表に注記として添付いたしました。

(参照：基本金に関する説明)

基本金とは、学校法人が、教育研究活動を行うために必要な資産（校地、校舎、機器備品、図書、現金・預金等）を継続的に保持するために維持すべきものとして、授業料などの負債性のない収入（基本金組入前当年度収支差額）のうちから組入れた金額です。

基本金の種類

- ①第1号基本金 … 設立当初及び新たな学校の設置若しくは、既設の学校の規模の拡大や教育の充実向上のために取得した固定資産の額
- ②第2号基本金 … 将来取得する固定資産に充てるために、事前に計画的、段階的に積み立てる金銭その他の資産の額
- ③第3号基本金 … 奨学基金、研究基金など継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額
- ④第4号基本金 … 恒常的に保持すべき資金として、不測の事態に備える所定の運転資金

資金収支計算書

平成29年 4月 1日 から
平成30年 3月31日 まで

(単位 千円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	(1,420,832)	(1,411,639)	(9,193)
手数料収入	(20,760)	(20,135)	(625)
寄付金収入	(8,290)	(9,158)	(△ 868)
補助金収入	(624,341)	(629,911)	(△ 5,570)
国庫補助金収入	195,834	184,624	11,210
地方公共団体補助金収入	311,807	317,430	△ 5,623
施設型給付費収入	116,700	127,858	△ 11,158
資産売却収入	(100,000)	(807)	(99,193)
付随事業・収益事業収入	(2,470)	(3,857)	(△ 1,387)
受取利息・配当金収入	(52,700)	(55,905)	(△ 3,205)
雑収入	(143,970)	(147,704)	(△ 3,734)
借入金等収入	(0)	(0)	(0)
前受金収入	(182,540)	(166,874)	(15,666)
その他の収入	(177,698)	(182,556)	(△ 4,858)
資金収入調整勘定	(△ 261,708)	(△ 309,954)	(48,246)
前年度繰越支払資金	(913,561)	(913,561)	
収入の部合計	3,385,454	3,232,153	153,301
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	(1,594,406)	(1,580,022)	(14,384)
教育研究経費支出	(503,092)	(451,534)	(51,558)
管理経費支出	(131,000)	(111,056)	(19,944)
借入金等利息支出	(271)	(250)	(21)
借入金等返済支出	(28,687)	(28,687)	(0)
施設関係支出	(1,824)	(1,824)	(0)
設備関係支出	(60,942)	(45,347)	(15,595)
資産運用支出	(367,400)	(282,878)	(84,522)
その他の支出	(58,962)	(58,407)	(555)
〔予備費〕	(1,824)		
〔予備費〕	21,176		21,176
資金支出調整勘定	(△ 21,409)	(△ 20,205)	(△ 1,204)
翌年度繰越支払資金	(639,103)	(692,353)	(△ 53,250)
支出の部合計	3,385,454	3,232,153	153,301

活動区分資金収支計算書

平成29年 4月 1日 から
平成30年 3月31日 まで

(単位 千円)

		科 目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,411,639
		手数料収入	20,135
		特別寄付金収入	8,302
		経常費等補助金収入	625,077
		付随事業収入	3,857
		雑収入	147,704
		教育活動資金収入計	2,216,714
	支出	人件費支出	1,580,022
		教育研究経費支出	451,534
		管理経費支出	111,056
		教育活動資金支出計	2,142,612
	差引	74,102	
	調整勘定等	△ 84,298	
	教育活動資金収支差額	△ 10,196	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	856
		施設設備補助金収入	4,834
		施設整備等活動資金収入計	5,690
	支出	施設関係支出	1,824
		設備関係支出	45,347
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	65,000
		減価償却引当特定資産繰入支出	201,400
		施設整備等活動資金支出計	313,571
		差引	△ 307,881
		調整勘定等	85,176
		施設整備等活動資金収支差額	△ 222,705
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 232,901	
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	807
		預り金受入収入	38,571
		仮払金回収収入	1,746
		小計	41,125
		受取利息・配当金収入	55,905
		その他の活動資金収入計	97,030
	支出	借入金等返済支出	28,687
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	16,478
		預り金支払支出	39,498
		仮払金支払支出	424
		小計	85,087
借入金等利息支出		250	
	その他の活動資金支出計	85,336	
	差引	11,693	
	調整勘定等	0	
	その他の活動資金収支差額	11,693	
	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 221,208	
	前年度繰越支払資金	913,561	
	翌年度繰越支払資金	692,353	

事業活動収支計算書

平成29年 4月 1日 から
平成30年 3月31日 まで

(単位 千円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収入の部	事業活動収入	学生生徒等納付金	(1,420,832)	(1,411,639)	(9,193)
		手数料	(20,760)	(20,135)	(625)
		寄付金	(8,620)	(8,302)	(318)
		経常費等補助金	(619,507)	(625,077)	(△) 5,570)
		国庫補助金	191,000	179,790	11,210
		地方公共団体補助金	311,807	317,430	△ 5,623
		施設型給付費	116,700	127,858	△ 11,158
		付随事業収入	(2,470)	(3,857)	(△) 1,387)
		雑収入	(85,820)	(89,557)	(△) 3,737)
		教育活動収入計	2,158,009	2,158,567	△ 558
教育活動支出の部	事業活動支出	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	(1,536,167)	(1,522,674)	(13,493)
		教育研究経費	(719,199)	(667,505)	(51,694)
		管理経費	(159,714)	(139,899)	(19,815)
		徴収不能額等	(0)	(0)	(0)
		教育活動支出計	2,415,080	2,330,078	85,002
教育活動収支差額		△ 257,071	△ 171,511	△ 85,560	
教育活動外収入	活動収入	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	(52,700)	(55,914)	(△) 3,214)
		その他の教育活動外収入	(0)	(0)	(0)
	教育活動外収入計	52,700	55,914	△ 3,214	
	活動支出	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	(271)	(250)	(21)
その他の教育活動外支出		(0)	(0)	(0)	
教育活動外支出計	271	250	21		
教育活動外収支差額		52,429	55,664	△ 3,235	
経常収支差額		△ 204,642	△ 115,847	△ 88,795	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	(500)	(0)	(500)
		その他の特別収入	(4,834)	(7,351)	(△) 2,517)
	特別収入計	5,334	7,351	△ 2,017	
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	(41,513)	(42,684)	(△) 1,171)
その他の特別支出		(58,325)	(58,325)	(0)	
特別支出計	99,838	101,009	△ 1,171		
特別収支差額		△ 94,504	△ 93,658	△ 846	
〔予備費〕		(0)			
基本金組入前当年度収支差額		△ 23,000		23,000	
基本金組入額合計		△ 322,146	△ 209,505	△ 112,641	
当年度収支差額		△ 155,639	△ 108,673	△ 46,966	
前年度繰越収支差額		△ 477,785	△ 318,177	△ 159,608	
前年度繰越収支差額		1,162,358	1,162,358	0	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		684,573	844,181	△ 159,608	

(参考)

事業活動収入計	2,216,043	2,221,833	△ 5,790
事業活動支出計	2,538,189	2,431,337	106,852

貸借対照表

平成30年 3月31日

(単位 千円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(12,847,717)	(12,862,630)	(△ 14,913)
有形固定資産	< 6,644,780 >	< 6,842,535 >	< △ 197,755 >
特定資産	< 5,765,586 >	< 5,535,764 >	< 229,822 >
その他の固定資産	< 437,351 >	< 484,330 >	< △ 46,980 >
流動資産	(868,780)	(1,070,870)	(△ 202,090)
資産の部合計	13,716,498	13,933,500	△ 217,003
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	(559,737)	(587,623)	(△ 27,886)
流動負債	(250,791)	(230,403)	(20,388)
負債の部合計	810,527	818,025	△ 7,498
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	(12,061,790)	(11,953,117)	(108,673)
第1号基本金	10,484,318	10,445,095	39,224
第2号基本金	863,706	798,706	65,000
第3号基本金	537,765	533,316	4,449
第4号基本金	176,000	176,000	0
繰越収支差額	(844,181)	(1,162,358)	(△ 318,177)
純資産の部合計	12,905,970	13,115,475	△ 209,505
負債及び純資産の部合計	13,716,498	13,933,500	△ 217,003

E) 財産目録

財産目録 (平成30年3月31日現在)

I 資産総額	13,716,498 千円
内 基本財産	6,644,780 千円
運用財産	7,071,717 千円
II 負債総額	810,527 千円
III 正味財産	12,905,970 千円

(単位 千円)

区	分	金額
資	産 額	
1.	基 本 財 産	6,644,780
土	地	115,990.99 m ²
建	物	50,359.69 m ²
図	書	326,553 冊
教	具・校具・備品	2,993 点
そ	の 他	153 基
2.	運 用 財 産	7,071,717
預	金・現金	692,353
そ	の 他	6,379,364
資	産 総 額	13,716,498
負	債 額	
1.	固 定 負 債	559,737
長	期 借 入 金	145,138
退	職 給 与 引 当 金	414,599
2.	流 動 負 債	250,791
短	期 借 入 金	28,687
そ	の 他	222,104
負	債 総 額	810,527
正	味 財 産 (資産総額-負債総額)	12,905,970

(注) 土地の評価基準は、取得価額基準による。償却資産の評価基準は帳簿価額による。

(注記)

1. 重要な会計方針

引当金の計上基準

徴収不能引当金 未収入金の徴収不能に備えるため、未収発生会計年度末から3年経過した日の属する会計年度末に実績に応じ個別に計上する。

退職給与引当金 大 学 期末支給額 538,701,328円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入調整額を加減した金額を計上している。
 高校以下 期末支給額 337,211,381円から長崎県私立学校退職金財団よりの交付金相当額を控除した100%を計上している。

その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的有価証券の評価基準は償却原価法である。

有価証券の評価基準及び評価方法は移動平均法に基づく原価法である。

たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法に基づく原価法である。

所有権移転外ファイナンス・リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

預り金に係る収支の表示方法

預り金に係る収入と支出は相殺して表示している。

学生食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法

補助活動に係る収支は半純額表示であり、総額表示科目は人件費、施設・設備費、借入金 純額表示科目は補助活動収入及び経費関係である。

2. 重要な会計方針の変更等

なし

3. 減価償却額の累計額の合計額

4,011,536,795 円

4. 徴収不能引当金の合計額

0 円

5. 担保に供されている資産の種類および額

担保に供されている資産の種類および額は、次のとおりである。

土 地

23,166,780 円

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金の組入れを行うこととなる金額

173,824,500 円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
 第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するための必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

種 類	当 年 度 (平成30年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	1,012,150,298	1,064,658,200	52,507,902
(うち満期保有目的の債券)	(849,868,098)	(887,697,000)	(37,828,902)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	1,345,911,813	1,286,937,872	△ 58,973,941
(うち満期保有目的の債券)	(847,760,000)	(825,634,774)	(△22,125,226)
合 計	2,358,062,111	2,351,596,072	△ 6,466,039
(うち満期保有目的の債券)	(1,697,628,098)	(1,713,331,774)	(15,703,676)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	2,358,062,111		

② 明細表

種 類	当 年 度 (平成30年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	1,697,628,098	1,713,331,774	15,703,676
株式	245,834,200	237,528,100	△ 8,306,100
投資信託	414,599,813	400,736,198	△ 13,863,615
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	2,358,062,111	2,351,596,072	△ 6,466,039
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	2,358,062,111		

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンスリースは次のとおりである。

平成21年4月1日以降に開始したリース取引

該当なし

(3) 純額及び総額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

(単位 円)

支 出	金 額	収 入	金 額
管理経費支出	50,608,067	補助活動収入	54,294,745
計	50,608,067	計	54,294,745
純 額			3,686,678

監 査 報 告 書

平成 30 年 5 月 7 日

学校法人純心女子学園

理 事 会 御中

評 議 員 会 御中

学校法人純心女子学園

監事

監事

私たち監事は、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人純心女子学園寄附行為第 7 条第 2 項に基づき、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの平成 29 年度における学校法人の財務書類（財産目録、貸借対照表（附属明細表を含む。））並びに資金収支計算書（資金収支内訳表・人件費支出内訳表・活動区分資金収支計算書を含む。）及び事業活動収支計算書（事業活動収支内訳表を含む。）を含め、学校法人の業務及び財産の状況に関し監査を行った結果、次のとおり報告します。

記

1. 監査の方法

- (1) 業務監査については、幼稚園、中学校、高等学校、大学ごとの業務を監査し、理事会及び評議員会等に出席し、学校法人の業務執行状況等の適法性及び妥当性を検討しました。さらに、第 3 期中期目標・中期計画の平成 29 年度実施状況の検証を行いました。
- (2) 財務監査については、公認会計士の監査と並行して実施しました。

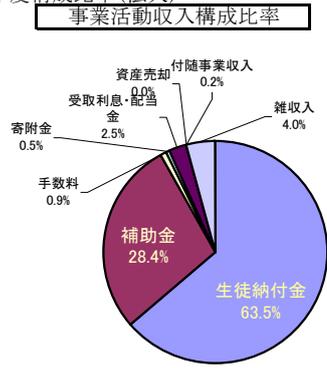
2. 監査報告

- (1) 学校法人の業務の執行に関しては、適正であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実がないことを確認しました。
- (2) 財産目録、貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動収支計算書は、会計諸帳簿の記載金額と合致し、記帳、計算ともに正確適切に行われている。また、法令及び寄附行為に従い、学校法人の財産の状況及び収支の状況が適正であることを認めました。しかしながら、学生・生徒の減少により、事業活動収支の当該年度収支差額において収支の改善がなされず、当該年度収支差額に大幅な赤字が生じたことは遺憾であり、早急な改善を要する。
- (3) 第 3 期中期目標・中期計画の平成 29 年度の実施状況は、概ね進捗している。今後の若年人口の減少に伴う経営環境の悪化に対応するためには、数値化になじむ事項である、学生の定員、教職員の定数等を年度毎に数値化し、進捗状況を管理するよう検討するとともに、学園の特徴、実績の PR を行い、学生等の確保を図るべく最大なる努力を要する。

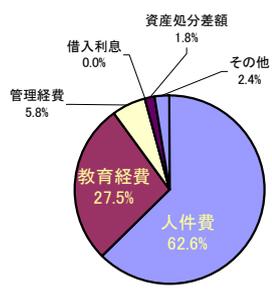
また、平成 30 年度入学した学生・生徒数の減少を勘案するに事業活動において、事業活動収支の均等を図るべく、最大なる努力を要する。 以上

G. 財務データ
① 事業活動収支関係

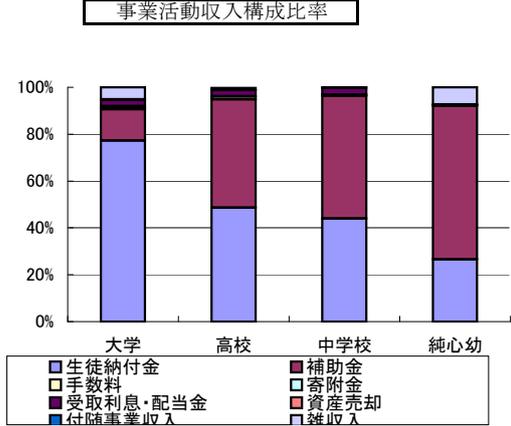
ア) 29年度構成比率(法人)



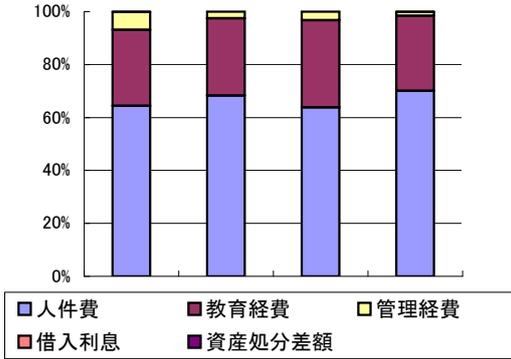
事業活動支出構成比率



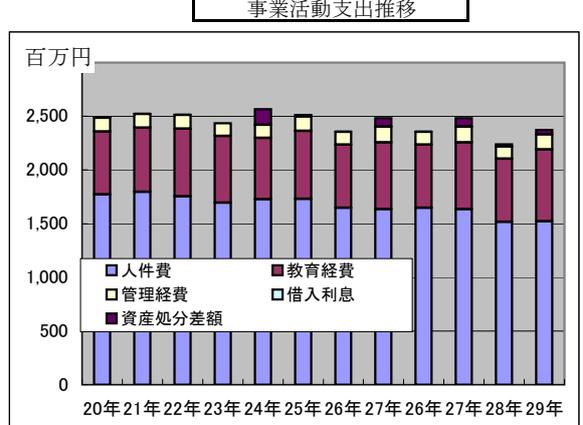
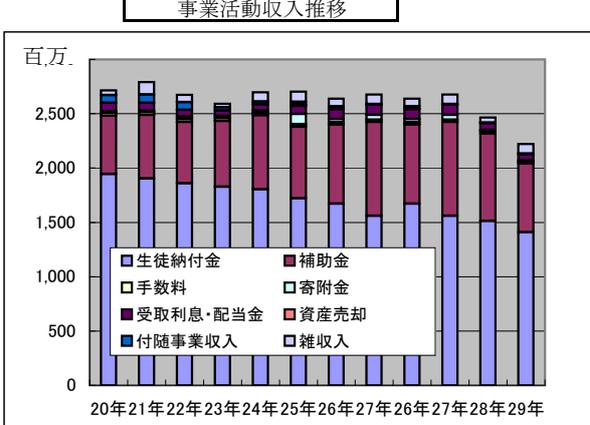
イ) 29年度事業活動収入構成比率(部門別)



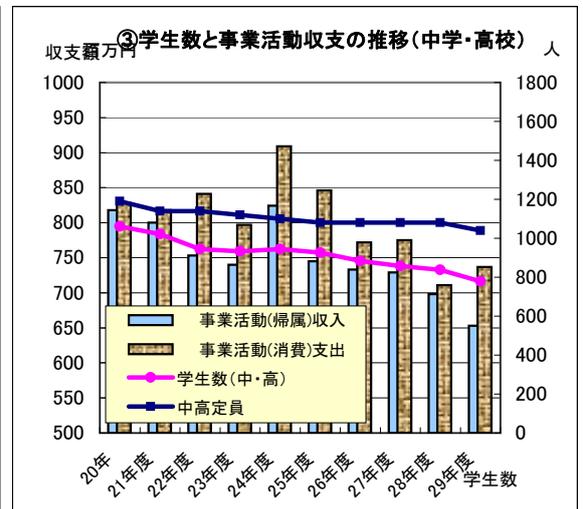
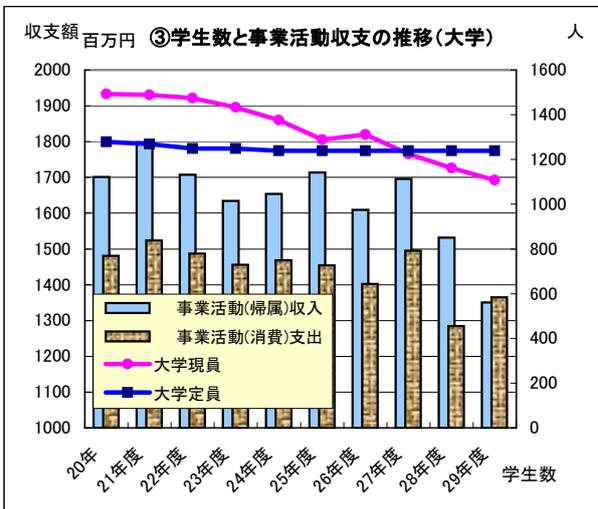
事業活動支出構成比率



ウ) 事業活動構成比率推移(法人 10年間)

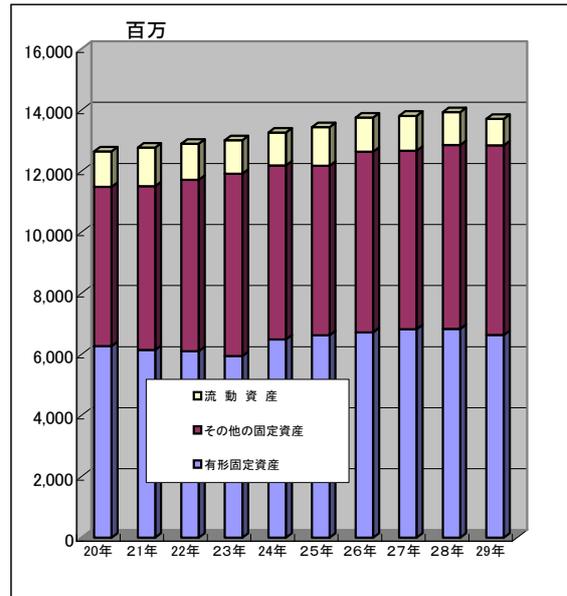
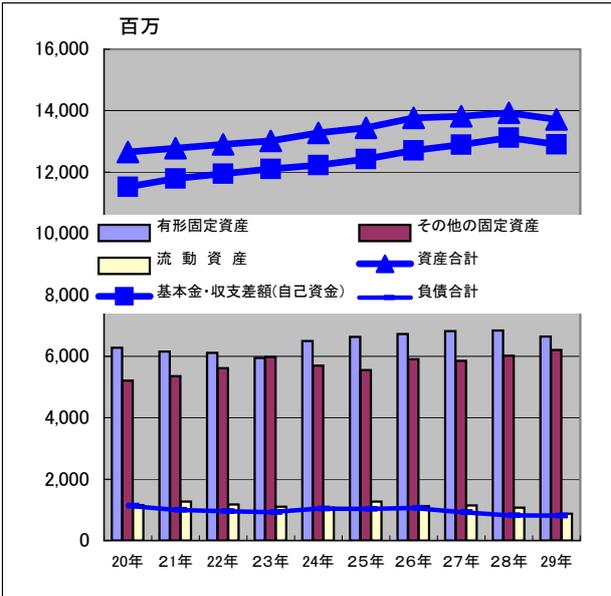


エ) 学生数と収支の関係推移



・25年度は学生数減となったが遺贈特別寄付7千万により収入は増加

②貸借対照表関係（資産・負債の推移）



※自己資金 = 基本金 + 繰越収支差額

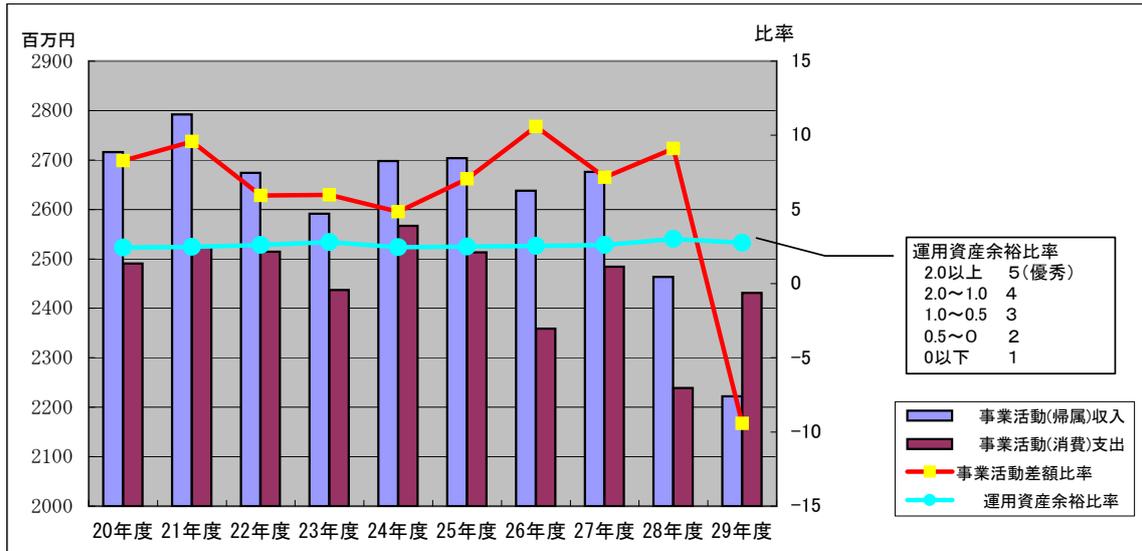
③財務関係比率

財務比率表 (法人全体)

比率名称	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
1 固定資産構成比率	90.8	90.1	90.9	91.6	91.9	90.6	91.9	91.7	92.3	93.7
2 流動資産構成比率	9.2	9.9	9.1	8.4	8.1	9.4	8.1	8.3	7.7	6.3
3 減価償却率	38.2	35.8	42.1	44.4	40.2	40.6	41.4	40.8	42.1	44.4
4 固定比率	99.8	97.7	98.2	98.5	99.7	98.1	99.5	98.3	98.1	99.5
5 固定長期適合率	93.9	92.7	93.4	94.1	97.4	92.9	95.1	93.8	93.9	95.4
6 自己資金構成比率	91.1	92.2	92.6	92.9	92.2	92.4	92.3	93.3	94.1	94.1
7 繰越収支差額構成比率	8.6	9.3	8.7	8.3	8.8	9.2	8.2	8.3	8.3	6.2
8 基本金比率	95.3	98.4	98.6	98.8	97.2	97.5	96.8	98.1	98.3	98.6
9 固定負債構成比率	5.7	4.9	1.1	4.4	5.4	5.1	4.7	4.5	4.2	4.1
10 流動負債構成比率	3.3	2.8	2.7	2.7	2.5	2.5	3.0	2.2	1.7	1.8
11 総負債比率	8.9	7.8	7.4	7.1	7.8	7.6	7.7	6.7	5.9	5.9
12 負債比率	9.8	8.4	8.0	7.6	8.5	8.3	8.4	7.2	6.2	6.3
13 流動比率	281.4	349.3	335.8	317.1	327.3	376.8	273.1	369.4	464.8	346.4
14 前受金保有率	364.8	408.1	422.6	381.7	390.0	472.6	439.8	399.9	625.7	414.9
15 退職給与引当預金率	92.0	84.0	84.9	87.7	94.3	93.3	95.6	96.7	96.9	96.7
16 積立率	141.4	139.0	136.9	135.1	130.5	133.4	124.3	124.6	124.9	118.3
比率名称	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
17 学納金比率	71.6	68.2	69.6	70.6	66.8	63.7	63.3	60.8	64.1	63.7
18 寄付金比率	0.5	0.4	0.9	1.0	0.7	3.5	1.1	1.7	0.5	0.5
19 補助金比率	19.8	20.9	21.1	23.3	25.3	24.3	27.7	32.2	32.7	28.4
20 人件費比率	65.3	64.3	65.5	65.4	64.1	63.9	63.3	58.3	64.3	68.8
21 教育研究費比率	21.5	21.4	23.7	23.9	21.1	23.5	22.3	23.2	24.9	30.1
22 管理経費比率	4.7	4.6	4.7	4.6	4.5	5.0	4.6	5.5	4.8	6.3
23 借入金等利息比率	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
24 基本金組入率	6.9	5.9	8.3	7.9	1.6	4.2	15.1	6.4	8.8	4.9
25 減価償却費比率	9.4	9.1	8.8	9.3	8.7	8.3	9.1	9.5	10.1	10.5
26 人件費依存率	91.2	94.4	94.2	92.7	95.9	100.4	98.6	104.8	100.3	107.9
27 基本金組入後収支比率	98.5	96.1	102.6	102.6	96.7	97.0	105.4	99.2	99.7	115.1
28 事業活動収支差額比率	8.3	9.6	5.9	6.0	4.9	7.1	10.6	7.2	9.1	-9.4
29 教育活動資金収支差額	-	-	-	-	-	-	-	11.3	14.8	-0.5
30 経常収支差額比率	-	-	-	-	-	-	-	6.3	6.0	-5.2

④経営指標を用いた分析

法人全体10年間の事業活動関係指標の推移



事業活動収支差額比率

事業活動収入から事業活動支出を差し引いた差額を事業活動収入で除した率です。

運用資産余裕比率

学校法人の永続性及び資産と負債のバランスを表す指標です。
過去10年間、指標5を維持しております。